



地域に生き世界に伸びる

阪大*Now*



OSAKA UNIVERSITY

No. 86 2005. **12**

目 次

トピックス	2
クローズアップ	4
役員室だより	8
ナウスペシャル	14
キャンパスニュース	16
表 彰 等	28
名誉教授リレー随想	32
計 報	34
インフォメーション	36
インタビュー	40
海外レポート	42
私の本棚	46
ガイドマップ	47
交流協定大学紹介	48

〈表紙解説〉植物のあるキャンパス風景

上段左から右へ順に、タイワンホトトギス、豊中キャンパスイ号館とハゼノキ、キンモクセイ、中段左から、吹田キャンパス蛋白質研究所とナンキンハゼの紅葉、ツリガネニンジンとベニシジミ（蝶）、吹田キャンパス GSE コモンウエストとサクラ、下段左からエビヅル、歯学部病院へ続く紅葉、ノコンギク。

サクラ以外は 10 月以降、大阪大学キャンパス内で記録したものです。大阪大学の各所で見られる春のサクラと秋の紅葉はことのほか見事です。どのように撮影しても絵になるはずですが、なかなか思うようには撮れずに苦戦しています。豊中、吹田キャンパスは 11 月中旬には紅葉が見事ですが、黄色いイチョウ並木が美しいのは豊中キャンパス、赤いナンキンハゼやアメリカフウの紅葉が美しいのは吹田キャンパスかなと感じています。

（大学院工学研究科生命先端工学専攻
特任研究員 栗原佐智子・教授 福井希一）

「大阪大学グローニンゲン



開催挨拶をするグローニンゲン大学 Kuipers 学長



開所式の模様

センター開所式及び共同シンポジウム」開催

本学が海外に設置する拠点の1つであるグローニンゲンセンター（オランダ）の設立を記念して、10月24日(月)に現地にて開所式を執り行いました。

このグローニンゲンセンターは、本学がアメリカに設置したサンフランシスコセンターと共に、本学の国際化促進の一翼を担うことが期待されている中心的な存在として位置付けられています。

このたびの開所式では、地元のグローニンゲン大学だけでなく、同市役所等関係者及び在蘭日系各諸団体の協力を得て、開催されました。

1900年代初頭に建築された歴史あるグローニンゲン大学本部棟において執り行われた開所式では、宮原秀夫総長から本センターの設置目的と意義等に関する説明及びセンター設置に対してご尽力いただいた関係各位への感謝の意が挨拶として述べられ、続いてグローニンゲン大学 Kuipers 学長、小町恭士在オランダ大使館特命全権大使及び van Schie グローニンゲン市副市長からスピーチがありました。

その後、基調講演として、本学から生命機能研究科柳田敏雄教授及び文学研究科柏木隆雄研究科長、グローニンゲン大学から理学部 Feringa 教授及び日本研究センター Segers 教授から現在の最先端科学に関する発表や日本とオランダの関係を中心とした講演が行われました。

この開所式には大阪大学関係者及びグローニンゲン大学関係者だけでなく、在蘭日系団体関係者やオランダ政府関係者にもご参加いただき、出席者は延べ150人に至り、式典後のバンケットでは鈴木直副学長、グローニンゲン大学 Zwarts 理事等の挨拶があり、和やかな雰囲気の中でセンターの開所を祝いました。

また、25日(火)及び26日(水)には、人文・社会系、理工系、医学系の3分野に関するシンポジウムがグローニンゲン市内で行われ、各スピーカーによる研究内容に関する講演と活発な議論が行われました。

25日の夜には、グローニンゲン大学主催により、シンポジウム参加者を招いた夕食会が開催され両大学を中心とした交流がありました。



宮原総長、Kuipers学長、小町大使、Van Schie副市長（左から）

基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」

工学研究科教授 福井 希一
特任研究員 栗原 佐智子

集まれ植物が大好きな学生！

大阪大学は戦前からある国立総合大学の中では珍しく農学部がなく、本学で学ぶ学生はヒト以外の生物、特に植物に関する講義を聴く機会が少なくなっています。しかし学生の中には植物のことをもっと知りたいという希望を持つ人は少数ながらもいます。基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」はこのような学生の要望に答え、かつ高校までの一般的な授業形式である座学ではない体験的課題追求型授業として始められたものです。ここでは植物学の基礎をきちんと学習すると同時に植物そのものを体験的に学ぶ機会を提供することを目的としています。本授業は第一セメスターの金曜日5限に設定され、サイバー講義および野外ワークの実践に特色があります。今年度は初回のオリエンテーションを吹田キャンパスで行ったあと、5回の植物学の基礎講義（植物分類学、植物遺伝学、植物生理学、植物生態学、植物バイオテクノロジー）をサイバー講義として行いました。また、体験的授業としては8回の野外ワーク（1回は兵庫県立淡路夢舞台温室「奇跡の星の植物館」と兵庫県立淡路景観園芸学校での講義と見学）を行いました。

サイバー講義と野外ワークの異分野融合

インターネットによる遠隔教育の導入は、昨年度までの授業に北野高校などから高校生の参加があり、阪大まで通う負担、本学の学生にとっても豊中キャンパスから工学部のある吹田キャンパスへの移動にかかる負担をとともに軽減できるというメリットも期待して導入したものです。授業アンケートでの学生の意見は、「教室の講義と違って板書が見にくい、声が聞き取りにくいという事がない」、「指名される回数が多く緊張して授業を聞けた」など、多くのポジティブな感想が寄せられており、従来の対面教育と比べ必ずしも劣るものではないとの確信が4年間のサイバー講義の実践で得られました。教壇に立つことなく講義を行うサイバー講義は、初めは戸惑うこともありましたが、教員にとっても豊中キャンパスまで出かけるという負担を軽減する大きなメリットがありました。



サイバー講義



野外実習風景

大阪大学のキャンパス内は、歩いてみると驚くほど多種多様な植物に出会えます。そして長年大阪大学と共に過ごしてきた方々のお話からは、大学の歩みと共に変遷を続けていることが分かります。吹田キャンパス千里門右手にあった大イチョウが工事にともなって枯死したことや、豊中キャンパスの松が枯れていっているのは残念なことです。野外ワークでは教員やTAをリーダーとして2、3名のグループを作り、豊中、吹田キャンパス内をグループに分かれてカメラおよび図鑑を携帯して種々の植物について説明しながら歩き、学生たちのペースで観察をさせました。

一見、草むらになど入って行きそうにない服装の女子学生、土に触れそうにない男子学生が楽しそうに「これ、子供の頃食べたことがある！全然おいしくなかった。」などお互いの体験を話しながら、30分に50メートルも進まないようなペースでしゃがみこみ、茂みに入り込み、蚊に刺されながらも熱心に観察を行いました。植物との付き合いは大抵、子供の頃の野外での遊びから離れるにつれご無沙汰になってしまうようです。受験を経て、再び自然に溶け込む姿に何かほっとさせられました。こうして普段見過ごしがちなキャンパス内の植物にも様々な種があることや、外来種が侵入してきていること、さらには地球環境の変化についても自ら観察する中で体験することが出来ました。もちろん観察した植物については学名を同定する中で正規の植物分類法も学びました。

阪大キャンパスに咲く、これからも守りたい植物たち



①：ジャコウアゲハの食草となるウマノスズクサ
(阪大附属図書館吹田分館の近く)
開花時期：7月～8月



②：朝日を浴びてまさにしほもうとしている
キカラスウリの花
(職員食堂「さわらび」の近く)
開花時期：7月～8月



③：ひっそりと鮮やかな花を咲かせるユリノキ
(サイバーメディアセンター吹田教育実習棟脇)
開花時期：5月上旬～中旬



④：小さな花を咲かせていたユキノシタ
(工学研究科生命先端工学専攻研究棟付近)
開花時期：5月～7月

※場所は、P7のマップを参照

植物を学んで地球を知る

植物について学ぶということは、植物学の範疇に留まりません。毎日私たちが食べている野菜やコメのような食用になるもの、ならないものというところからも既に分類は始まっています。今まで知らなかった薬用植物を同定することにより薬学分野へ、建物が新しい場所や人の往来が多い場所で拡がる外来種の変遷を知ることにより環境や生態学の分野へ、記紀に取り上げられている植物を目の当たりにすることから文学や歴史の領域へ、と知識や興味が広がります。これは大阪大学が教育目標の一つとして掲げている「教養」の涵養に大きくつながるものと期待しています。さらに言うならば亜熱帯原産の竹の分布域の拡大から、地球上の一点にすぎないこの大阪大学のキャンパスをフィールドとして、地球環境全体の変化を捉える視点が養われるかも知れません。工事によって何年もそこで花を咲かせていた植物や大きな木が簡単に枯れあるいは消え去ってしまうことは、植物がいかに脆いものかを知る事と同時に生物に対するいとおしさもまた感じる事ができるのではないのでしょうか。

校外実習

最後の授業は兵庫県立淡路夢舞台温室「奇跡の星の植物館」での野外ワークと兵庫県立淡路景観園芸学校での植物の多様性と園芸療法についての講義でした。植物が食糧資源であることはもちろん医薬品や工業原料などの資源であり、かつ癒しの資源にもなるということを参加した学生は自らの体験の中で感じたことと思います。

半期の短い間でしたが、学生たちが植物学の基礎を身につけ、学内の植物相について把握しようとする中で地球の温暖化や環境変化についても植物を通じて主体的にかつ実践的に学ぶという本講義の目的は、十分達成されたと考えられます。

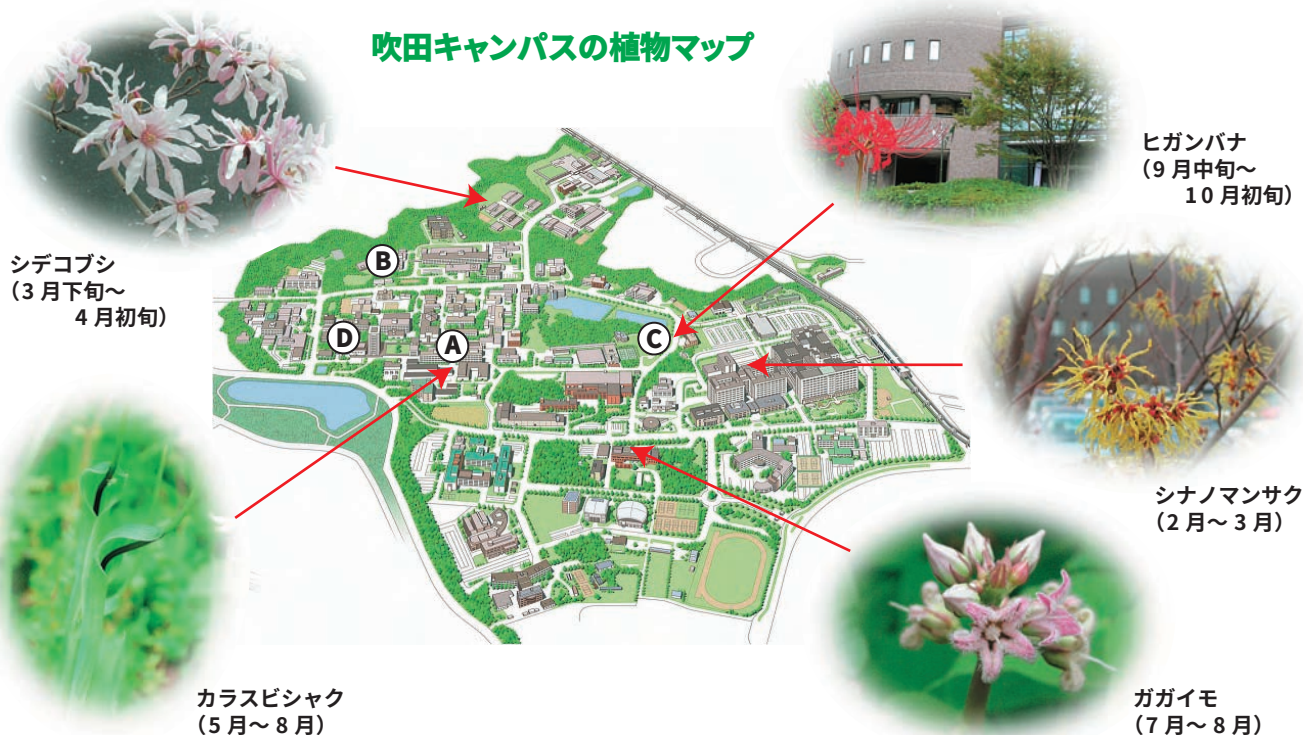


奇跡の星の植物館

豊中キャンパスの植物マップ



吹田キャンパスの植物マップ



「阪大キャンパスに咲く花」の出版

これまでの基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」の成果をまとめ、大阪大学の二つのキャンパスに咲く花々を紹介する「阪大キャンパスに咲く花（仮称）」の出版準備を、工学研究科の学生、院生、教員、研究員、阪大総合学術博物館の方々に協力いただき、現在進めています。

現在目にすることの出来る植物は皆名前があり、季節が来れば花を咲かせていますが、サクラのように春の代名詞のようなものもあればケヤキやクスノキのように、まさか花が咲くとは気付きもしないような樹木の小さな花もあります。サクラのように出会いや別れと共に開花が訪れる植物は思い出に残るでしょうし、夏に木陰を提供してくれた緑濃いケヤキやクスノキは、名前は分からずとも、学生時代を過ごしたキャンパスの風景の記憶として留まることでしょう。この本には、阪大キャンパスに咲く花々を紹介し、同定した学名を検索できる図鑑であると同時に、学生諸君や教職員の思い出も緑豊かな阪大ならではの風景とともに記録するアルバムの役割を持たせることを目標としています。全国の高校や予備校図書館に必携の基本図書となるばかりではなく、阪大を訪問される内外の研究者に対しても阪大を知るための良い記念の品となるでしょう。

ふと目に入った花の名前が知りたい時の助けになることはもちろん、学術的なレベルは落とさず、学内の環境変化も知るための2005～6年時点での阪大キャンパスの植生の学術的な記録文書となるような内容とすることを前提として、持ち歩けるサイズで豊中、吹田版それぞれ1冊ずつを2007年早春に出版する予定です。

写真・詩歌等募集中

現在、キャンパス内で写真撮影を続けていますが、この本には「阪大らしさ」を加えていきたいと考えております。大阪大学の学生、教職員の植物が好きな方、写真の好きな方、詩歌を作るのが好きな方々がいらっしやと思います。皆様の阪大内の植物、植物のある風景、植物名を入れた和歌など募集しておりますのでご協力いただける方はメール、もしくは学内便にて下記まで作品をお送り下さい。

連絡先：工学研究科生命先端工学専攻 福井研究室 栗原佐智子 宛

E-mail: kurihara@bio.eng.osaka-u.ac.jp

ふくい・きいち

プロフィール

1973年京都大学農学部卒業、1978年同大学院博士課程修了。1978年農水省入省。
1997年大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻教授、現在に至る。

くりはら・さちこ

プロフィール

1994年北里大学衛生学部卒業。1996年昭和薬科大学薬用植物園、北里大学薬学部附属薬用植物園講座研究員。
1997年北里大学病院技術員。2004年大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻特任研究員、現在に至る。

役員室だより

2005.12 Vol. 9

2005年も師走を迎え、法人化2年目も残すところ3ヶ月となりました。法人化の仕組みも数多くの課題を抱えており、大阪大学の運営も、落ち着いた定常状態に達したとはまだまだ言えない状況です。2006年4月からは、新課程教育、いわゆる「ゆとり教育」を小中高で受けてきた新入生が入学して参ります。その結果、大学における教育も低学年教育を中心に大きく見直す必要があるとも言われており、大阪大学としても大きな課題を抱えることになります。その他、国の政策の変更に伴って、国立大学を取り巻く環境は益々厳しくなることが予想されます。このような状況の中、執行部としましては、総長のリーダーシップの下、構成員の意見を反映させた変革・改革を強力に推進し、2006年が少しでも明るい希望に満ちた年となるよう精一杯努力する所存です。皆様方のなお一層のご協力とご支援をお願いいたします。

各室の検討状況

総合計画室

平成18年度年度計画

法人化後、1年9ヶ月が経過し、各部局におかれては中期計画に則り、平成16年度計画、17年度計画と着実に進めていただいているところですが、早くも18年度計画の作成に取り組んでいただく時期となりました。

既に、各部長あてをお願いしているところですが、平成18年度計画の作成にあたっては、特に以下のことにご留意の上、ご検討をよろしくお願いいたします。

- ① 16年度部局達成状況報告書や17年度における部局年度計画の達成状況（進捗状況）を踏まえ、18年度において達成可能な計画及び18年度以降に継続する計画について具体的に記載すること。
- ② 達成可能な数値目標を、できるだけ記載すること。
- ③ 各年度計画の着実な達成の積み重ねにより、中期目標・中期計画が達成できたと説明ができるように、各年度計画の整合性に注意すること。

設備整備に関する検討ワーキング

6月20日の役員会で「大阪大学における設備整備に関する基本的考え方」が承認されるとともに、ワーキングが設置されました。

ワーキングでは、この基本的考え方に基づき、

- ① 設備の効率的な整備方法の策定
- ② 設備の効率的な有効利用・共同利用化を図るためのシステム構築
- ③ その他設備整備に関すること

について検討することになっています。

このワーキングは、これから、全学における現有設備（1千万円以上）の設置状況を調査した上で、設備マスタープランの策定及び設備の有効利用・共同利用化の推進に資するためのデータベース化の検討等を当面の主な作業課題として取り組んでいくこととしています。なお、平成19年度以降の概算要求において設備更新を要求するためには、設備マスタープランを策定していることが必須となります。

男女共同参画に関する検討ワーキング

12月上旬に全学教職員・学生のご協力を仰いで「多様な人材活用推進のための実態調査」のアンケートを実施しました。今回のアンケートは、特に男女共同参画推進のための基礎データを得ることに焦点を絞った内容としております。

今後は、今回の調査結果の集計、分析を踏まえながら、ワーキングにおける検討の取りまとめに向けて作業を進めて行く予定としています。

同窓会連合会マネジメントワーキング設置

これまで同窓会連合会設立検討ワーキングにおいて検討を進めた結果、本年7月25日に同窓会連合会が設立されたことにより同ワーキングの所期の目的は達成されました。

しかしながら、連合会の運営や具体的な事業を確立するための検討課題はまだ数多く残っています。そこで、設立検討ワーキングを「マネジメントワーキング」に改組し、引き続き、部局同窓会とも調整しながら検討課題についての意見を集約の上、具体案を作成し、幹事会に提案していきたいと考えています。

教育・情報室

学務情報化の進捗

本年1月より教育情報室の下本に学務情報化特命プロジェクトを発足させ、関係諸機関の協力によりシステム選定を進めて参りましたが、9月には新日鉄ソリューションズ株式会社の提案を採用することに決定し、現在、導入に向けた作業を急ピッチで進めています。



先日、プロジェクトメンバーとシステム名称をKOAN (Knowledge of Osaka University Academic Nucleus) と決定し、ロゴも本学コミュニケーションデザイン・センター 久保田徹さんによるキュートなものに決定いたしました。

今後、皆さまの目に触れる機会が増えることと思います。

本システムは、これまで主として紙ベースで行われてきた学生による履修申請、シラバス参照、成績参照、教員による成績投入、アンケートなどの作業をすべてWEBを通じて行うことにより、事務処理の効率化を図ると共に、学生と職員、教員官のコミュニケーションを円滑にし、学務に関する詳細なデータを蓄積することにより、より密な履修指導や進路指導を行って教育の質の向上につなげていこうというものです。

このようなシステム構築は、とにかくシステムを構築し、導入すれば、翌日からすぐ使えるものと思われがちですが、今回は、学務・教務業務のあり方、及び学生向けサービスの抜本的見直しを行い、業務の効率化と学生向けサービスの向上、教育の質の向上を目指しています。そのようなことを踏まえ、多くの方の協力を得て識別したために要求仕様をもとに、システムをカスタマイズしていくと同時に、業務のルールやプロセスの見直しという手間のかかる作業が必要です。また、場合によっては、業務そのものをシステムに合わせて単純化することで、全体の効率化をはかることも必要になってきます。その際には、関係諸機関の協力なしには行えず、特命プロジェクトのスタッフが調整に走り回ると行ったこともあります。

業務の最適化を含めたシステム導入は、民間では当たり前ですが、本学ではあまり行われてこなかったようで、様々な困難にぶつかります。しかし、本特命プロジェクトが一つのモデルケースとして、今後の本学のシステム導入に生かすノウハウや教職員のスキルを蓄積することが求められているのです。平成18年の後期から専門科目、平成19年の前期から共通教育の学生を含めた全学生の履修申請をKOANで行う予定です。本システムは本学のすべての教職員、学生が係わる重要なシステムであり、また、本学の情報化のフラッグシッププロジェクトでもあります。このような全学的なシステムの導入を非常に短期間で行うためには、是非とも皆様のご参画とご協力をお願いします。

KOANに関する情報は以下のホームページから順次発信していく予定です。(http://www.koan.osaka-u.ac.jp)

来年度から履修手続きが新しく変わります！
専門教育科目からスタートします

今まで紙に書いて提出していた、履修登録が！！
なんと！
学内のパソコンを使ってリアルタイム登録！！
その場で履修！！その場で決定！！

※年度2学期の専門教育科目履修登録から学内パソコンを利用したweb履修登録を予定しています。
履修登録期間内であれば、履修科目の修正・削除・追加が自由に行えます。

共通教育を含めたweb履修登録は2007年度から実施を予定しています。
学生部が推進 2006年11月

KOAN

詳細はホームページをご覧ください
http://www.koan.osaka-u.ac.jp

研究推進室

科学研究費補助金申請状況

平成18年度分の科学研究費補助金申請方法が大幅に変更になり、研究者は、ID・パスワードを取得し、電子申請システムにて必要な応募情報を入力後、研究計画調書を研究推進・国際部を通じて申請することとなりました。科研申請説明会の開催等、事務局並びに部局事務部の協力により、ほとんどの研究種目で昨年度の件数を上回りました。

(新規申請件数)	17年度	18年度
特別推進研究	14	17
特定領域研究	492	518
基盤研究S	29	29
基盤研究A	113	134
基盤研究B	401	429
基盤研究C	504	527
萌芽研究	483	500
若手研究A	63	76
若手研究B	447	448

部局横断型研究プロジェクト

大阪大学として将来の研究の方向性を絶えず検討し、新規研究領域を開拓すると共に、各省庁の大型プロジェクトに企画・立案段階から積極的に関与し、公募に際してはそれに即応できる研究計画を準備し、戦略的に対応する必要があります。

上記の状況を踏まえ、研究推進室の下に

- (1) ナノサイエンス・ナノテクノロジー研究戦略WG (ナノサイエンス・ナノテクノロジー企画推進室会議)
- (2) 生命科学・生命工学研究戦略WG (生命科学・生命工学企画推進室会議)
- (3) 理工学研究戦略WG
- (4) 文系研究戦略WG
- (5) 文理融合研究戦略WG

の5グループを設置し、大阪大学構成員からの部局、分野横断型の研究プロジェクトの提案を頂いています。これらの中から、

- ① 「知と行動研究プロジェクト」
- ② 「フロンティア産業バイオ研究推進機構」
- ③ 「超高圧電子顕微鏡連携ステーション」
- ④ 「阪大ナノサイエンス・ナノテクノロジー国際シンポジウム～IT・M&BT・NT・デザインの融合～」

(次に掲げるプロジェクトとの合同シンポジウム)

- 1) 計算機ナノマテリアルデザイン
- 2) ナノITの創出
- 3) 新規ナノ構造の創成と機能予測・制御およびデバイス応用
- 4) 物質科学融合国際拠点構想
- 5) 融合ナノテクノロジー国際拠点
- ⑤ 「アクア・水の多機能活用・水の都の総合科学技術を目指して」
- ⑥ 「非線形テクノサイエンス教育・研究推進プロジェクト」
- ⑦ 「先端技術デザインセンター」
- ⑧ 「東アジアの地域統合と中国」等

の提案に対し予算配分し、研究集会、シンポジウム開催を支援しています。

評価・広報室

17年度業務実績報告書の作成

平成17年度計画の推進及び平成18年度計画の策定に向けた達成状況評価書を各部局へ送付しました。この達成状況評価書は、平成16年度実績に対するコメント、平成16年度実績と平成17年度計画との整合性、中期計画達成に向けた留意点等を中心に、当室としての意見を記載しています。

各部局におかれては、本評価書をご活用いただきますようお願いします。

なお、本年度も昨年同様次のスケジュールで、平成17年度業務実績報告書の作成を予定しています。

- ◆ 12月～1月：各部局・各室等において、平成17年度計画（案）を策定
- ◆ 2月～4月上旬：各部局・各室等において「平成17年度達成状況評価シート」を作成
- ◆ 4月中旬～5月上旬：同シートを基に大学の「年度業務実績報告書（案）」を作成
- ◆ 5月上旬～中旬：同案を各室等で点検、評価委員会で審議、役員連絡会へ提出
- ◆ 5月中旬：同案を教育研究評議会、経営協議会へ報告
- ◆ 6月：同案を役員会で審議
- ◆ 6月末：大学の「年度業務実績報告書」を文部科学省へ提出

大学評価・学位授与機構による「大学情報データベースの試行的構築」

大学評価・学位授与機構の大学情報データベースの構築について、今年度中に10校程度の大学でデータ提供等の試行を実施することになり、本学にも協力依頼がありました。本学としては、積極的に協力し、意見を出していくこととしています。

法科大学院認証評価の実施

本学高等司法研究科は、学校教育法の規定に基づき大学評価・学位授与機構（認証評価機関）による法科大学院認証評価（予備評価）を、平成18年度に受ける予定です。スケジュールは次のとおりです。

平成18年	6月	自己評価書の提出
	9～10月	補足説明の作成、資料・データ等収集
	10～11月	訪問調査
平成19年	1～2月	評価結果（案）に対する意見の申立ての検討
	3月	評価結果の確定
平成19年度以降		本評価

なお、各学部・研究科を含む大学全体の認証評価については、7年以内ごと（法科大学院は5年以内ごと）に受ける必要があります。第1回目は平成22年度までに受けることになります。時期については、評価・広報室において、国立大学法人法に基づく中期目標期間の法人評価との関係をにらんで検討しています。

情報コーナーの設置

地域社会との連携を推進するため、吹田市役所に続き、12月に大阪モノレール 千里中央駅・阪大病院前駅にパンフレットスタンドを設置し、阪大の情報を積極的に一般市民に提供しています。

また、学内施設では、11月にオープンした「カフェテリア匠」と「適塾」にも設置しました。

財務・会計室

平成 17 年度予算補正

法人化に伴い、本学の予算は、授業料収入、附属病院収入などの自己収入の増減が支出に反映されるため、予算補正案の編成という作業を行う必要があります。

このため、年度当初の収入見込額と 11 月時点の収入見込額との増減額を支出予算に反映させた平成 17 年度予算補正案を策定し、11 月に開催された教育研究評議会、役員会において承認されました。

平成 17 年度大阪大学資金運用

本学では、平成 16 年度から余裕資金の一部（40 億円）で国債、地方債を購入し、資金運用を開始しています。平成 17 年度には、10 月に償還が到来した国債 10 億円を国債、地方債に買い換え、新たに国債を 30 億円購入することとし、更なる効率的な資金運用を図っております。

財務運営に関する検討ワーキンググループ

人件費等の中期的見通し及び収支バランスの確保方策を含む中期的な財政計画の策定に関する検討を行うことを目的に本ワーキンググループを財務・会計室の下に設置しました。

人事労務室

「教職員給与規程」等の改正

本年 8 月に人事院勧告が行われ、これに基づき給与法の改正案が国会に提出され、11 月に成立しました。また、閣議決定及び経済財政諮問会議の提言など厳しい社会情勢の状況の下、本学の対応方針として、人事院勧告依拠を基本に給与改定を実施することとしました。ただし、非常勤教職員及び寄附講座教員等については、今回給与改定は行わないこととしています。

なお、教職員への方々への詳しい経緯、内容については、学内専用ホームページをご覧ください。

（平成 17 年 12 月 1 日実施）

自己啓発活動等支援のための休職制度等

大阪大学の職員が、自主的に自己啓発のための活動を行い、より高い使命感と働きがいをもってその職務を遂行できるよう、大学院への進学や海外留学等の自己啓発活動について大学が認めた場合、試行的に休職等の措置を講ずることとしました。

なお、休職期間中は給与は支給しませんが、大学が必要と認めた場合は、自己啓発活動支援資金を貸与することとしています。

（平成 18 年度実施予定）

平成 17 年度業務改善アイデア賞

大阪大学における事務・業務については、法人化後の大学運営を考慮し、できるだけその縮減を図っていく必要があります。その実現のためには、管理者だけでなく、日頃から教職員が事務・業務の改善を考えることが有効な手段となります。

今回、学内から「業務改善アイデア」を募集したところ、80 件の応募があり、優秀者賞 2 件、特別賞 3 件が選定され、11 月 22 日に総長から表彰を受けました。

国際交流推進本部

大阪大学グローニンゲンセンターの開所式及びシンポジウム開催

大阪大学海外教育研究拠点・(オランダ) グローニンゲンセンターがこの4月に開かれたことは既に報告した通りですが、この10月24日にグローニンゲン大学においてセンターの開所式が行われました。本学からは宮原秀夫総長はじめ約50名が参加しました。

式典は宮原総長、Kuipers グローニンゲン大学学長、小町恭士在オランダ特命全権大使等の挨拶に続き、本学の柳田敏雄生命機能研究科教授、柏木隆雄文学研究科長等の基調講演がありました。25、26日の両日には両大学の Collaboration Symposium が行われ、人文・社会科学系、理工系、医学系の3分野に分かれ、それぞれの分野で両大学から10名ずつの発表がありました。シンポジウムの後、グローニンゲン大学側の発表者の研究室を訪問し、共同研究や学生交流についての話し合いが行われました。

この開所式およびシンポジウムは両大学ひいてはヨーロッパの大学との研究・学生交流を一層推進するものであります。(開所式およびシンポジウムの詳しい報告は本誌2～3ページにあります。)

上海交通大学とのセミナー開催

11月24日に上海交通大学において、大阪大学と上海交通大学との学術交流セミナーが開かれました。上海交通大学は阪大 NOW No.84 (2005年8月号)で紹介した通り、1896年に創立された中国で最長の歴史を持つ、最も有力な大学です。

このセミナーは1995年を第1回に両大学で交互に行われ、今年は第10回目のものです。(2003年はSARSのため実施を見送りました。) 今回のテーマは“ Bridging of Research and Education for Sustainable Development in Asia ”であります。今回のセミナーでは、上海交通大学謝繩武学長および宮原秀夫大阪大学総長の挨拶に続き、全体会議において6名の発表がありました。その後、ナノサイエンス・材料と化学・情報の2つの分科会が行われ、大阪大学から5名、上海交通大学から4名の発表があり、同大学の若年研究者や学生の多くの参加がありました。また、分科会が行われた新キャンパスの広大さと設備のよさには強く印象付けられました。(関連記事が本誌26ページにあります。)



セミナー風景



上海交通大学

大阪大学における国際交流戦略

この数ヶ月、国際交流推進本部で検討してきましたが、成案がほぼまとまりました。「世界に開かれた魅力ある大学」を目指す大阪大学の国際交流戦略を間もなく発表します。また、この3月文科省により採択された「大学国際戦略本部強化事業」についての、本学の取り組みもホームページに掲載しています。

食の安全・安心 ―学内における生協の取り組み―

大阪大学生生活協同組合食堂部

大阪大学生生活協同組合では、豊かなキャンパスライフには健康的な食生活が不可欠と考えます。2005 年春に利用者の健康、食の安全・安心を願いさまざまな情報提供を開始しました。

お知らせするだけでなく、食事そのものが安心・安全、「出どころ確かな」食材を提供しています。

アレルギー物質を含む食品に関する表示について

2002 年 4 月より、アレルギー物質を含む食品に関する表示が、法律によって義務づけられました。

近年、アレルギー物質を含む食品が原因の健康危害が多く見られ、こうした危害を未然に防ぐため、表示を通じた消費者への情報提供の必要性からアレルギー物質の表示が法制化されました。

厚生労働省では、食物アレルギーを起こす頻度が高いものや、重篤（病状が著しく重い）なアレルギーを起こすことが明らかになった 5 品目を、「特定原材料」として表示を義務付け、また、それらに準ずるものとして、19 品目について表示を奨励することになりました。（食物アレルギーの原因物質は時代とともに変化すると考えられているため、新たな知見や事例報告により、適宜見直しが進められる予定です。）

阪大生協では、表示すべきアレルギー食品（食材）がひと目でわかるように独自の表示を行っています。留学生にもわかりやすいようしています。

阪大生協では、食堂部で販売しているホッকার弁当については、すでにアレルゲン表示済みの商品を提供しています。

また、2002 年 10 月より、生協食堂で提供しているメニューについても可能な限り、プライスカード等に表示し、食物アレルギーに対しても「安心」感・「安全」感を持っていただけるように努めています。

表示を義務付ける商品 5 品目	卵、乳、落花生、そば、小麦
表示をすすめる商品 19 品目	あわび・いか・いくら・えび・かに・さけ・さば・牛肉・鶏肉・豚肉・大豆・まつたけ・やまいも・オレンジ・キウイフルーツ・もも・りんご・くるみ・ゼラチン



アレルゲン表示サンプル



カフェテリア匠のプライスカード

プライスカードの下部に含まれるアレルギー物質のアイコンを表示しました。主要 5 品目を始め、重要度の高いものから表記しています。



プライスカード

公開講座「教員のための英語リフレッシュ講座」開催

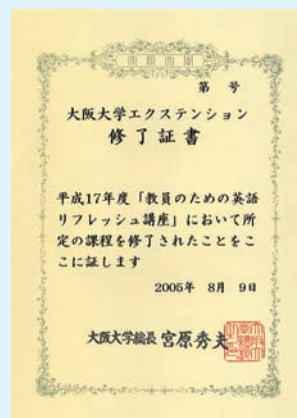
8月8日(月)、9日(火)に平成17年度の大学院言語文化研究科主催の公開講座が大阪大学中之島センターにおいて開催されました。本講座は4回目となりますが、今年度は本学初のエクステンションとしての開催となり、修了証は総長名で発行されました。中・高の英語教員のほか小学校、養護学校、大学の教員、大学院生、さらに翻訳者など、英語教育に関心を持つ多くの方(53名)が大阪、兵庫、京都、奈良など近畿圏だけではなく群馬、名古屋からも参加しました。自治体教育委員会の教員研修も本格化し、かつ類似の公開講座がかなり増えているにも関わらず、(パンフレット、HP、雑誌などでも広報したことから、)定員を超える応募となりました。



全体討論の風景

各講師がそれぞれの専門的立場

から、現場で直面している問題への考え方や対策のほか、IT時代の授業の魅力的な展開の仕方、生徒の理解を深め感動を与える文法や講読の授業のあり方など、学術的な知見を踏まえ知的に啓発するとともに、教室で応用できる多彩な内容を講義しました。運用英語についても最新の音声学的知見(発音生理のMRI動画)や生徒にも適用できる発音指導法を示した上で、2クラスに分割してネイティブ・スピーカーの先生による実戦訓練を実施しました。アンケート(HPで公開)においても、「アカデミズムに触れられて良かった」という感想が多かったのも特徴的でした。全体討論、懇親会も活発な意見・情報交換の場になりました。



公開講座修了証

(大学院言語文化研究科)

薬学部新入生合宿研修

薬学部新入生合宿研修が、9月29日(木)、30日(金)の日程で、京都市右京区京北にある京都府立ゼミナールハウスで新入生81名、教職員16名が参加して実施されました。

これは、薬学部が平成7年度から新入生を対象に始めた行事で、専門課程の授業が始まる1年次後期の開始時期を捉えて、薬学部の現状と将来に対する認識の再確認とともに、学生と教職員の親睦を深めることを目的として行っているものです。

1日目は、京都市伏見区にある月桂冠の記念館と製造所を見学した後に、宿舎であるゼミナールハウスに入りました。

ゼミナールハウスでは、最初のプログラムの全体討議で、山元 弘学部長の講話「大阪大学薬学部の目指すもの」に続いて、前田正知教授が「薬学部履修要領について」、宇野公之教授が「いくつかの薬学部について」、吾郷由希夫助手が「学部大学院の過ごし方」という題で話されました。講演中、学生は真剣な様子で聞き入り、また、終了後の質問も予定時間をはるかに超えて活発なものになりました。

夕食は野外でバーベキューをし、京の深山の中で、肉や野菜に舌鼓をうちながら、にぎやかに交流しました。



分科会風景

2日目は、少人数のグループに分かれて分科会を行い、学生と教員が学生生活や薬学の未来など自由なテーマで話し合いました。

このように、盛り沢山で、少しハードな日程でしたが、なごやかなうちにも爽やかなものとなりました。

(大学院薬学研究科・薬学部)

薬学部6年制新教育体制に関する説明会を実施

大学院薬学研究科では、「薬学部6年制新教育体制に関する説明会」を10月1日(土)に大阪市内の「エル・おおさか」にて開催しました。京都大学薬学研究科との共催で実施した本説明会は、平成18年度から始まる薬学部6年制導入に対応する両大学の新教育体制に関して広く情報を提供することを目的とするもので、高等学校および予備校の



熱心に質問する参加者

先生方を対象に行いました。

まず、高見 功文部科学省高等教育局医学教育課薬学教育専門官から、今回の制度改革の背景や経緯、さらには薬剤師国家試験の受験資格などについてご説明いただき、次に、橋田 充京都大学大学院薬学研究科長から、両大学を始めとする国公立大学が採用する6年制学科と4年制学科の併置について、その意義やそれぞれの学科での教育の目標や内容について説明がありました。続いて、山元 弘大阪大学大学院薬学研究科長および赤池昭紀京都大学大学院薬学研究科教授から、両大学における新体制についてそれぞれ具体的な紹介があり、その後には質疑応答の時間を設けました。

本会には近畿圏の学校を中心として約100名の参加者がありました。非常に熱心に聞いていただき、また制度や教育内容に関して活発に質問が出され、大変有意義な説明会となりました。

(大学院薬学研究科・薬学部)

御堂筋パレードに参加!

10月9日(日)に大阪・御堂筋で開催された御堂筋パレード(主催 財団法人大阪21世紀協会)のフィナーレにて、大阪大学大学院情報科学研究科、神戸大学工学部、上田女子服飾専門学校、武庫川女子大学、相愛大学、(KK)レイトロン、特定非営利活動法人ウェアラブルコンピュータ研究開発機構による光・音楽・ダンス・ファッションを融合したシンフォニーパレードを行いました。パレードでは、LEDがピアノ演奏に同期してファッションابلに光る服や鍵盤を縦方向に取り付けたピアノ服、光るチューブを埋め込んだアニマル柄のダンス服、光るアクセサリを身に着けたワンショルダーの服が披露された。総勢116名から構成されるパレードは、「大輪の花」をコンセプトに御堂筋いっぱいに花を咲かせました。

(大学院情報科学研究科)



重建懷徳堂模型披露式典開催

大学院文学研究科では、株式会社竹中工務店（竹中統一社長）から寄贈された「重建懷徳堂模型」（1/50 1基、1/100 2基）の披露式典を10月11日（火）に、文法経本館（文学部・経済学部会議室）で開催しました。

披露式典は、柏木隆雄研究科長の式辞、宮原秀夫総長及び山原一見竹中工務店副社長による挨拶の後、柏木研究科長より「重建懷徳堂」模型が披露され、続いて、宮原総長



宮原総長から山原竹中工務店副社長へ感謝状贈呈

から竹中工務店に感謝状が贈呈されました。

重建懷徳堂は、1724（享保9）年に五同志（ごどうし）と呼ばれた5人の大坂町人の尽力により創建され、1869（明治2）年幕末維新の動乱により閉校となるまで、約150年にわたり幾多の優れた学者を輩出した学問所「懷徳堂」が、復興を願う関西の財界人の支援も得て、財団法人懷徳堂記

念会により、1916（大正5）年に重建懷徳堂として再建されたものです。

この重建懷徳堂は、戦前まで誰でも水準の

高い学問を学ぶことのできる場として親しまれてきたところ、1945（昭和20）年に大阪大空襲により焼失しましたが、焼失を免れた書庫に保管されていた懷徳堂の蔵書約3万6千点を含む資料約5万点が本学に寄贈され現在に至っています。

このたび、これらの懷徳堂文庫資料の総合調査の過程で発見された重建懷徳堂の設計図を基に、当時設計・施工にあられた株式会社竹中工務店の厚意により、復元模型が製作され本学に寄贈されたものです。

「懷徳堂」及び「適塾」をその学問の源流としている本学では、長く懷徳堂の学問と精神を継承するため、1/50模型1基は文学研究科玄関ロビーに、1/100模型2基は、総長室と中之島センター玄関ロビーに置くこととしました。

（大学院文学研究科・文学部）



重建懷徳堂模型

海外拠点セミナー開催

大阪大学の海外拠点のひとつである大阪大学サンフランシスコセンターでは、大阪大学の北米での積極的な研究成果の情報発信の一環として、10月21日（金）に「Nanotechnology Today」と題してシリコンバレーにおいて英語によるセミナーを実施しました。大学院工学研究科の河田聡教授が、「ナノテクノロジーとフォトニクス技術の現状と将来」について講演を行い、またカリフォルニア大学サンタバーバラ校との共同研究を実施している、三菱化学のMC Research & Innovation Center, Inc.の吉江建一氏から、「国際共同研究において大学と企業は真のパートナーとなれるのか」という講演が行われました。

当日は、現地メディア等で積極的に周知を図ったこともあって、70名を超える参加者があり、活発な質疑応答及び終了後のレセプションで各講師との意見交換が行われ、現地企業や研究者等との交流について成果が得られました。

（サンフランシスコセンター）



セクシュアル・ハラスメント防止等に関する研修実施

10月28日(金)、セクシュアル・ハラスメント防止等に関する研修が医学部A講堂において実施されました。この研修は、今年度において、新任の部局長、専攻長、学科長、事務(部)長、課長、補佐、技師長、看護師長及び新任の教授等の新たに監督者となった教職員及びセクシュアル・ハラスメント防止等に関する部局委員会委員に対して、セクシュアル・ハラスメントの防止等に関し、その求められる役割について理解させることを目的としたもので、60名が参加して実施されました。

人権問題委員会委員長の平沢安政大学院人間科学研究科教授からの挨拶の後、水島郁子大学院法学研究科助教授から「セクシュアル・ハラスメント等の防止と雇用管理上の配慮」と題する講演が行われました。

講演では、法人化後、セクシュアル・ハラスメント防止のために教職員に適用される法律及び就業規則等についての説明とともに、どのような行為がセクシュアル・ハラスメントとなるのか、実際に事案が発生した場合の管理者としての責任及び対応等について、具体的な設例を交えて説



明されました。

受講者は熱心にメモを取り、最後に活発な質疑応答が行われ、好評のうちに終了しました。

(総務部人事課)

大学院薬学研究科公開講座「くすりと医療」開催

平成17年度大学院薬学研究科公開講座が、10月22日(土)、29日(土)の2日間にわたって本学吹田キャンパス内薬学研究科特別講義室を会場として開催されました。

本講座は、「くすりと医療」と題して、薬学や医療に関わる人たちの生涯教育の一環として、最新の知見をもとに、薬学の現状と課題について、広く医療に関わる学内外の6名の講師により、独自の展望を語っていただきました。薬剤師をはじめ、会社員、主婦など幅広い年代層にわたる約50名が受講しました。

開講に当たって、今回の公開講座の座長である東純一教授の挨拶と開講についての趣旨説明があり、薬効ゲノム情報(株)・大塚製薬(株)新薬開発本部顧問の今川健一氏、大阪大学知的財産本部特任教授の藤澤幸夫氏、独立行政法人医薬品医療機器総合機構部長の田中克平氏、大学院薬学研究科教授の宇野公之氏、独立行政法人医薬基盤研究所主任研究官の増井徹氏、特定非営利活動法人医薬ビジランスセンター理事長の浜六郎氏により、ゲノム薬理学、最新の創薬、薬学教育とその実践への展望、薬の代謝と酸素、医療を支える社会基盤や医薬品の適正使用に関わる提言など、医療薬学、医薬品と人との接点に関わるテーマで最近の知見を交え、それらの科学的基盤から倫理的側面に至る広範



な内容の講義が行われ、受講生は熱心に聞き入っていました。

また、最終日に行ったアンケート調査では、開催日程・場所の設定などに関して一部要望が寄せられましたが、内容的には極めて高く評価され、多くの参加者から今後の本講座開講への強い期待が寄せられました。

(大学院薬学研究科・薬学部)

平成17年度事務局消防訓練等実施

平成17年度事務局消防訓練等が去る10月31日(月)吹田市北消防署の指導のもと、事務局職員約150名が参加して実施されました。

消防訓練は、事務局の本部共通棟2階監査室前湯沸室から火災が発生したことを想定し、「通報訓練」、「消火訓練」及び「避難誘導訓練」が行われました。



引き続き、消防署係官の指導により事務局前庭にて「水消火器による初期消火訓練」並びに事務局玄関前にて「屋内消火栓の取扱訓練」を受けた後「消火栓からの放水訓練」を行いました。

消防訓練終了後、指導にあたった吹田市北消防署係官から、通報及び初期消火については良好に行われたが、通報から避難完了報告までに時間を要しているため、今後は避難時間を短縮できるようにとの講評が行われました。それを受けて、北見耕一理事・事務局長から吹田市北消防署へのお礼と、今回の消防訓練を踏まえて今後は火災予防に関して十分に対応できるようにしていきたいとの挨拶がありました。

その後、15名が事務局内4階会議室に場所を移動し、「救助袋を使用した降下訓練」を行いました。当初、4階から1階へ降下するという内容に戸惑いを見せながらも、参加者全員、終始緊張した雰囲気の中で、真剣に取り組んでいました。

(財務部資産課)

平成17年度大阪大学特志解剖体追悼法会実施

去る11月1日(火)、四天王寺本坊(大阪市天王寺区)において、平成17年度大阪大学特志解剖体追悼法会が執り行われました。

この法会は、系統解剖及び病理解剖のために大阪大学に御献体いただいた方々を追悼するもので、毎年四天王寺で実施しているものです。



慰霊の詞を捧げる遠山正彌医学部長

当日は好天に恵まれ、過去1年間に献体された方々の御遺族をはじめ医学部及び歯学部解剖学関係各教員並びに本年度解剖実習をした両学部の学生等、関係者約500数十名の参列者がありました。

法会では、遠山正彌医学部長、高田健治歯学部長及び両学部の学生代表が慰霊の詞を捧げた後、僧侶の読経の中、両学部教員代表、御遺族代表、大阪大学白菊会会長及び両学部学生代表の焼香に続いて参列者の焼香が行われました。次に、医学部神経生物学・形態学講座の内山安男教授から参列者に対して挨拶があり、厳粛な雰囲気の中に午後2時閉会となりました。

また、法会終了後、大阪市北区長柄の大学墓地において、昨年度の解剖実習のために献体された方々のうち、大学墓地に埋葬を希望されていた方々の納骨法要が営まれ、御遺族及び大学関係者の見守る中で、21柱の御遺骨が納骨され、滞りなく予定の行事が終了しました。

ここに改めて、御遺族の方々に感謝を申し上げますとともに故人の御冥福を心からお祈りいたします。

(医学部)

OUCE第一回演奏会開催!

OUCE（大阪大学室内楽アンサンブル、Osaka University Chamber Ensemble）の第一回演奏会が、吹田祭関連行事として11月2日(水)17:30-19:10、大阪大学コンベンションセンター、MOホールで開催されました。4月に設立して初めての演奏会でしたので、どれだけの方に聴きにきていただけるか全く未知数でしたが、250部印刷したプログラムが残り20数部となり、メンバー一同思いがけないことに大感激でした。メンバーの口コミ活動も熱心にやりましたが、吹田祭関連行事として広報活動していただいたことや、大阪大学のホームページ、千里タイムスなどに掲載していただいたことも効果があったことが、アンケート結果から分かりました。大学関係者だけでなく、近在の方々にもかなりお越しいただき、小さな子供さん連れの家族も何組もおられました。アンケートには色々貴重なご意見をいただき、また予想以上にハイレベルという評価も数名の方からいただきました。これを励みに、今後大学祭に定期演奏会を開くことを基本にして活動していきたいと考えております。ご支援よろしくお願い申し上げます。

次回は4月30日(日)を予定しております。なお、この演奏会を開くに当り、事務局総務課及び大阪大学後援会よりMOホール使用について一方ならぬ便宜をはかっていただきました。厚く御礼申し上げます。

(OUCE)



OUCE 第一回演奏会を終えて



観客席

演奏会の様子はホームページ (<http://www.mls.eng.osaka-u.ac.jp/ensemble/>) をご覧下さい。

医学部保健学科 特別講演会「医療の質管理」を開催

11月3日(木・祝)、グランキューブ大阪において、医学部保健学科及び医学系研究科医科学修士社会医学コースの主催で、大阪大学高度医療教育講座「医療マネジメントセミナー Advanced Course」特別講演会「医療の質管理」が、医療関係者約170名の参加者を得て開催されました。

この特別講演会は、医療施設における適切な医療マネジメントの遂行が医療にとって如何に重要であるかを啓発する活動の一環として開催されたものです。

特別講演会では、荻原俊男医学部附属病院長の開会挨拶の後、矢崎義雄独立行政法人国立病院機構理事長による「医療の質管理向上—国立病院機構の経験を踏まえて」の基調講演がありました。次いで、パネルディスカッション「医療の質管理」では、武田 裕医学部附属病院医療情報部教授が座長となり、パネリストとして杉原茂大学院国際公共政策研究科教授、浅田孝幸大学院経済学研究科教授、岩谷良則大学院医学系研究科教授、井部俊子聖路加看護大学長、三上裕司社団法人日本医師会常任理事、小水満医学部附属病院医療技術部長から講演が行われました。会場からは参



「医療の質管理向上—国立病院機構の経験を踏まえて」と題する特別講演の矢崎義雄・独立行政法人日本病院機構理事長

加者による活発な質疑があり、医療マネジメントに対する医療界の関心の高さが示されました。

特別講演会終了後には、交流会が開催されました。

(医学部保健学科)

第2回ベトナム・日本学生科学交流会議:VJSE2005開催

学生主催による第2回ベトナム・日本学生科学交流会議が、11月5日(土)～6日(日)に基礎工学部国際棟(シグマホール)で行われ、250人を超える多数の参加者を迎えて盛大に開催されました。本会議は、大阪大学の各部局や地域の各支援団体の協力のもと、基礎工学部未来研究ラボシステムの活動の一環として行われ、大阪大学のベトナム留学生・シグマ留学生会を中心に、大阪大学の教授・教職員、関連支援団体の招待客、日本各地のベトナム留学生、日本人学生、他の国の留学生、若い研究者らが交流する試みです。午前の開会式では主催学生代表 TUAN 君の開会の辞・趣旨説明に続いて、宮原秀夫総長始め、ベトナム領事館代表者 Nghi 氏、ベトナム教育訓練省代表者 Tien 教授、橋本日出男国際交流推進本部長の祝辞があり、また西田正吾大学院基礎工学研究科長から“ベトナム・日本等の学生・研究者の領域を超えたネットワーク構築を”との歓迎の挨拶がありました。さらに、柏木隆雄大学院文学研究科長、小谷眞一大学院理学研究科長、豊田政男大学院工学研究科長らの祝辞がありました。開会式の最後に、次回の開催校を代表して藤田誠一神戸大学教授と学生代表から挨拶がありました。これに



開会式



ベトナム民族ダンス

引き続き、未来研究ラボシステム長でもある伊藤 正大学院基礎工学研究科教授からは、ベトナムと大阪大学との交流の歴史と展望について、また野村大成大阪大学名誉教授からはダイオキシンや放射線による次世代への影響に関して基調講演がありました。

開会式の後、「らふおれ」にて行われた交流パーティーは、ベトナム民族衣装ダンス・歌などもあって大いに盛り上がり、ミーティング参加者の交流が活発に行われました。その後、基礎工学研究科にて、5つのセッションに分かれて、参加者の研究発表がありました。

翌日は、ベトナム文化祭が賑やかに開催され、日本各地のベトナム留学生の科学交流、学生活動紹介の後、適塾等の見学ツアーも行われて、2日にわたる会議を成功裡に終了しました。第3回のミーティングは、大阪大学の学生も協力して、神戸大学で行われる予定であり、現在既にその準備が始まっています。

(大学院基礎工学研究科・基礎工学部)

平成17年度 大阪大学教職員および学生「剣道教室」開催



吹田地区体育館(11月4日(金)～8日(火))において、午後12時～12時50分の時間帯に開催しました。

本教室では、従来の竹刀で激しく打ち合う剣道ではなく、木刀による形(かた)の動きや居合(いあい)の動き、模擬日本刀の操作などを体験することにより、正しい姿勢と

大学教育実践センター・運動健康支援部門では、教職員および学生「剣道教室」を、豊中地区体育館(9月27日(火)～29日(木))と、

呼吸を身につけ、集中力を高め、無理のない動作を実践し、剣道の本質的な原理とその良さに触れていただくことを目的としました。

今回、豊中地区では約26名、吹田地区では35名の希望者が参加し、礼法、構えに始まり、木刀の振り方、相手の動きに対する応じ方などをゆっくりとした動きで練習しました。また、飛んでくるボールを木刀で打ったり、高段者同士の演武を観賞するなど、楽しめる要素も内容に加えました。激しい動きや筋力、持久力は必要とせず、また、剣道の経験や年齢、体力に関係なく安心して参加できるため、参加者には大変好評でした。

当センターでは、今回の開催を参考とし、さらに実施内容、時期、期間、場所を再検討したうえで、来年度の開催を計画しています。

(大学教育実践センター)

セクシュアル・ハラスメント全学相談員研修会実施

11月1日(火)及び11月9日(水)にセクシュアル・ハラスメント全学相談員研修会が豊中地区(文・法・経本館中庭会議室)及び吹田地区(事務局403会議室)において、それぞれ実施されました。この研修会は、全学相談員を対象に、相談者へのより適切な対応の仕方を身につけることを目指して実施されたものです。

セクシュアル・ハラスメント相談室長の仁科一彦理事・副学長から挨拶の後、同副室長の松本和彦高等司法研究科教授又は荻野美穂文学研究科教授から、本学におけるセクシュアル・ハラスメント防止等の制度等について、詳細な説明が行われました。

続いて、セクシュアル・ハラスメント専門相談員である周藤由美子氏及び松岡秀子氏による、相談受付に関する講義及び演習が行われました。周藤専門相談員から、セクシュアル・ハラスメント相談の重要性、全学相談員の役割、相談者の気持ちなどについて説明を行いました。

続いて、模擬事例をもとに、どのように対応すれば相談者が安心して相談できるかを検討しました。参加された全



学相談員はセクシュアル・ハラスメントについて重要課題と認識されており、積極的に質問・意見が出されました。短い時間でしたが、知識・技術ともより一層深めることのできる研修会となりました。

(総務部人事課)

「第9回関西科学技術セミナー」開催

11月8日(火)、9日(水)の両日、大阪大学において、関西科学技術セミナー企画会議、関西サイエンスフォーラム、大阪府及び大阪大学の主催により「第9回関西科学技術セミナー—市民のための科学技術—」が開催され



主催者挨拶する熊谷信昭関西科学技術セミナー企画会議会長代理(兵庫県立大学長、大阪大学名誉教授)



ました。

今回のテーマは「市民のための科学技術」。セミナーには、企業、行政、研究者及び学生など、約300名が参加し、初日は、大阪大学コンベンションセンターMOホールにおいて、基調講演、テーマ別講演、先端科学技術はいかに市民に夢を与えうるかをテーマにパネルディスカッションが行われ、2日目は、午前には大阪大学、午後には彩都地区の施設見学が行われました。

(大学院情報科学研究科)

第8回適塾研究会開催

第8回適塾研究会が、8月2日(火)、9月27日(火)、10月6日(木)、11月10日(木)に、大阪大学中之島センターにおいて開講されました。

この研究会は、本学が適塾記念会と共催で、適塾顕彰事業の一環として毎年開催しているもので、今回は、「適塾と医学―感染症をめぐって―」を共通テーマに、同会理事の芝 哲夫名誉教授、同会評議員の的場梁次大学院医学系研究科教授のコーディネートのもと、多田羅浩三名誉教授

が「適塾と長與専斎」、芝 哲夫名誉教授が「適塾と北里柴三郎」、加藤四郎名誉教授が「緒方洪庵と種痘」、そして木下タロウ微生物病研究所長が「適塾と現代の感染症」と題した講演をそれぞれ行いました。

今回の受講生は34名で、受講者は最後まで熱心に聴講し、最終回終了後には講師との懇親会を催すなど、好評のうちに終了しました。

(総務部総務課)



芝 哲夫名誉教授



加藤四郎名誉教授

第24回千石会総会・懇親会開催

11月11日(金)、大阪大学中之島センター7階講義室2において、第24回千石会総会が行われました。

議事に先立ち、阪本重男総務幹事による開会の挨拶、叙勲受賞者の紹介及び物故者への黙祷が行われました。

引き続き議事に入り、根来 勲会長から、新規会員、現会員数等の報告があった後、平成16年度会計報告等について協議が行われました。

最後に、北見耕一理事・事務局長から本学の近況について報告があり、閉会となりました。

総会終了後、10階佐治敬三メモリアルホールにおいて、賛助会員(現職)の参加を得て懇親会が賑やかに行われました。

*「千石会」とは、大阪大学に事務職員として在職した者が、終生互いに交流し、親睦を重ねることを目的として、昭和57年5月に結成されたものです。会の名称の「千」は千里、「石」は石橋からとったものです。

(総務部総務課)



懇親会

『自然科学の基礎を訪ねる』

科学の最先端を市民に語る―市民に向けた第21回湯川記念講演会開催

湯川記念室の定例行事として毎年開催している湯川記念講演会が、本年度は世界物理年日本委員会・関西委員会、大阪市立科学館等との共催により、『自然科学の基礎を訪ねる』をテーマに、11月19日(土)、20日(日)大阪大学中之島センターにおいて開催されました。

19日(土)には、「振動運動の観察」「音波の測定」「霧箱と身の回りの放射線」「磁石とコイル」をテーマとした物理実験のデモと解説が、理学研究科物理学専攻や核物理研究センターのスタッフや大学院生、計20人あまりによってなされました。普段、見慣れない面白い実験が披露され、興味を持って訪れた高校生や一般の人々をとりこにしました。

20日(日)には、『ロケット、科学衛星、ブラックホール』と題し東京大学大学院理学系研究科牧島一夫教授が、『スーパースtring理論―究極理論への挑戦―』と題し本学大学院理学研究科土屋麻人助手が、『高温超伝導の謎』と題し同研究科田島節子教授が、『サブアトム世界の魅力』と題し核物理研究センター保坂 淳助教授がそれぞれ講演



講演する東京大学 牧島教授

を行いました。最先端の物理が平易に解説され、聴衆から質問が続出しました。

両日とも、聴衆の知的興味を呼び起こす有意義なものとなりました。

(湯川記念室)

公開講座フェスタ2005開催

適塾記念会並びに懐徳堂記念会が参画する HSN (阪神奈大学生涯学習) ネットと大阪府立文化情報センターとの共催で行う市民向け生涯学習事業「公開講座フェスタ」が、11月7日(月)から26日(土)の期間にわたり、同センターのさいかくホールで開催されました。

今年度は「ながれ～再生・現代(いま)を生きる」を総合テーマに、適塾記念会から、11月21日(月)に江口太郎総合学術博物館長が「ナノ空間における分子の集合とながれ」と題し講演を行いました。

当日は、多数の受講者が参加し、最後まで熱心に聴講するとともに、終了後も大変活発な質疑応答があり、大盛況の講座となりました。

(総務部総務課)



平成17年度永年勤続者表彰式挙行

平成17年度永年勤続者表彰式が、11月22日(火)午前11時30分からコンベンションセンター会議室1において、受章者のうち35名の出席のもとに挙行されました。

式は、理事及び部局長等多数が臨席する中、宮原秀夫総長から受章者一人ひとりに表彰状と記念品を授与された後、ねぎらいの言葉が述べられ、続いて、受章者を代表して医学部附属病院の峰孝子氏が答辞を述べ閉式しました。

引き続き事務局前で記念撮影を行った後、祝賀会が本部福利棟2階で行われました。

祝賀会は、北見耕一理事・事務局長の挨拶で始まり、和やかな歓談のひとつきを過ごし盛会裏に散会しました。

今年度表彰された方は、次のとおりです。

辰巳 裕三(事)	原 直樹(事)
茶谷 孝三(事)	河本 浩司(事)
伊藤栄時郎(事)	香川さゆり(事)
三宅 信久(人)	山口 高生(法・高等司法)
川上 政博(法・高等司法)	金澤 照美(経)
續木佐知子(理)	染田 正宏(理)
森継 明広(理)	宮島 章(理)
川崎 富夫(医)	岡本 明(医)
村上 太造(医)	中原 勝治(工)
森 哲也(基)	安田 俊浩(言)
峰 孝子(医病)	黒瀬 泉(医病)



島袋 正恵(医病)	草場 明子(医病)
鎌田 政子(医病)	佐々木千枝(医病)
上北 純子(医病)	今田 恭子(医病)
笹垣三千宏(医病)	中川 弘美(医病)
古賀 誠治(医病)	深澤 博昭(医病)
江田 勝彦(医病)	清水美喜子(歯病)
本多二三枝(歯病)	中臣 勝彦(歯病)
村田 敬子(微)	藤乗 幸子(産)
奥村 明子(産)	斉藤 昌樹(レーザー)
飯田 秀樹(CSCD)	児嶋 真弓(医病)

(総務部人事課)

上海交通大学との学術交流セミナー開催

大学間交流協定校である上海交通大学(中華人民共和国)との協定に基づき、両大学の交流事業の一環として毎年行われている学術交流セミナー「上海交通大学 大阪大学



学術交流校10周年記念及び第10回学術交流会」が11月24日(木)～11月25日(金)、上海交通大学で行われました。

本セミナーは両大学が交互に企画・実施し、今回で第10回目を迎えました。今年度のテーマは「アジアにおける持続的発展のための研究・教育連携(Bridging of Research and Education for Sustainable Development in Asia)」とし、21世紀COEプログラムの4分野(Nano Science and Technology, Chemistry, Information, Material)に関する学術交流セミナーに加え、両大学の緊密な連携を見据えた今後のより幅広い学術交流を促進するための討議が行われた学術交流セミナーには、宮原秀夫総長を始め、本学側から12名及び上海交通大学 謝 繩武学長、上海交通大学の研究者、学生など100名を超える参加者があり、基調講演会に引き続いて行われた各分野ごとの分科会においても活発に意見交換が行われました。

(研究推進・国際部国際交流課)

最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics

主に高校生を対象に、第一線の研究者が最先端の物理を分かりやすく講義するとともに、演示やゲームも取り入れ、物理や科学に対する興味を引き出そうとするプロジェクト、「最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics」が、大阪大学湯川記念室と世界物理年関西委員会の主催、大阪大学理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、大学教育実践センターの共催で、10月22日から11月26日までの6週にわたり、豊中キャンパス基礎工学部シグマホールと吹田キャンパス工学部で開催されました。

毎土曜日午後3時から6時までの授業は、(1)基幹講義：自然界の様々な世界を訪ねる (2)コーヒープレイク：実験デモ、実演、展示、交流 (3)実践講義：物理、技術の現実世界での応用 の3部で構成され、自然の謎を解き明かす最先端の物理の探索とともに、我々の社会にこうした知識と技術がいかにかき入れられ実現されているかなど、未来への展望も含めてわかりやすく解説されました。

毎回、平均約140人が参加し、講義終了後には活発な質疑応答が行われるなど、「知りたい、学びたい」と思って自主的に参加した高校生の期待と熱気に溢れていました。なかには片道2時間以上かけて通い続ける参加者もあったほどです。

また、工学研究科、核物理研究センター、レーザーエネ



ルギー学研究センターにおける最新研究設備の見学も行なわれるなど、参加者にも好評のうちに全プログラムが終了し、最終日には、鈴木直副学長から修了証書が授与されました。

詳細は、ホームページ <http://www.yukawa.phys.sci.osaka-u.ac.jp/SAP/> に掲載されています。6週間にわたって大学が高校生に提供するこのようなプログラムは日本で初の試みでしたが、盛況のうちに終了しました。

(湯川記念室)

平成17年度適塾記念講演会開催

本学が毎年、適塾記念会との共催で行う適塾記念講演会が、11月30日(水)午後6時から、大阪大学中之島センターの佐治敬三メモリアルホールで開催されました。

当日は、宮原秀夫総長(適塾記念会会長)からの挨拶に続き、「中之島の蔵屋敷・堂島の米会所」と題し宮本又郎



講師：宮本教授



講師：高杉教授

大学院経済学研究科教授が、また「アインシュタインとわれわれの宇宙」と題し高杉英一大学教育実践センター長が、それぞれ講演を行いました。

約150名の受講者は最後まで熱心に聴講し、終了後も活発な質問が出るなど、大変盛況な講演会となりました。

(総務部総務課)

秋の褒章と叙勲

平成17年度の秋の褒章及び叙勲受章者が発表され、本学関係の受章者は次の方々です。

谷口直之	(大学院医学系研究科教授)	紫綬褒章
新開陽一	(名誉教授)	瑞宝重光章
片山俊	(名誉教授)	瑞宝中綬章
吉川巖	(名誉教授)	瑞宝中綬章
佐藤正次	(名誉教授)	瑞宝中綬章
吉田博	(名誉教授)	瑞宝中綬章
竹之内脩	(名誉教授)	瑞宝中綬章
和田昭三	(元施設部長)	瑞宝双光章
岡島美智子	(元施設部電話交換室長)	瑞宝単光章
北松子	(元歯学部業務課栄養士)	瑞宝単光章

平野俊夫教授 日本医師会医学賞受賞

11月1日(火)日本医師会館にて、平野俊夫生命機能研究科長が平成17年度日本医師会医学賞を受賞しました。受賞理由は“サイトカインの分子生物学・免疫学的研究”です。日本医師会医学賞(Medical Award of The Japan Medical Association)は日本医師会会員で、医学上重要な業績をあげた研究者に、毎年1回、基礎医学・社会医学・臨床医学を通じ計3名に授与されるものです。本学関係の同賞の受賞者としては、平成2年の岸本忠三前総長、垂井清一郎名誉教授(平成2年)、北村幸彦名誉教授(平成6年)、谷口直之教授(平成13年)らが名を連ねており、平野教授が9人目です。

今回で46回を数えますが、臨床医学部門の神戸大学の春日雅人教授、国立がんセンター総長の垣添忠生氏とともに、平野教授が基礎部門から受賞者に選ばれました。インターロイキン6などのサイトカインは免疫応答、アレルギー反応、炎症反応、造血、骨形成等で重要な役割を果たしています。平野教授はインターロイキン6を発見するとともに、その作用機構を明らかにしました。さらにインターロイキン6の異常で関節リウマチなどの自己免疫疾患が発症することを明らかにしました。さらにサイトカインシグナルが亜鉛シグナルとリンクすることを明らかにしました。平野教授らの基礎研究は、現在同疾患治療に向けた臨床研究へと結びついています。さらに、免疫学を超えて、発生学、再生医学、癌研究に共通の基本原理の解明に向かっての新しい生命科学の領域へと発展しつつあります。



(大学院生命機能研究科)

下條真司サイバーメディアセンター長、大阪科学賞受賞

サイバーメディアセンター長の下條真司教授が「インターネットの応用に関する実践的研究と学際的展開」の業績により第23回（平成17年度）大阪科学賞を受賞しました。

同賞は、大阪府、大阪市、財団法人大阪科学技術センターが主催し、財団法人大阪21世紀協会が後援するもので、表彰式・記念講演は、11月1日（火）大阪科学技術センターで行われました。最初に主催者から挨拶があった後、同賞の選考委員会委員長である宮原秀夫総長から選考経緯の説明があり、ついで大阪府知事（代理三輪副知事）及び大阪市長（職務代理者井越助役）から下條真司センター長に大阪科学賞が、ついで和田財団法人大阪21世紀協会常務理事から記念品が贈呈されました。

引き続き記念講演として「インターネットの黎明から未来へ」と題して、研究の契機、研究スタイル、現在の研究、未来の科学技術者を志す若者へのメッセージなどについて講演が行われ、招待された中学生・高校生を含む約200名の参加者が熱心に聴講しました。

下條センター長の研究成果は、最近のGridとよばれる離れた場所にある複数の計算機をインターネットを介してあたかも一つの計算機であるかのように接続し、利用する技術や大阪大学が保有する世界最高性能の超高圧電子顕微鏡をインターネットを介して遠隔地から接続して観測し、データを解析して共有するシステムなどに生かされており、これらは研究者が協力して新しい科学のあり方を示すものとして世界中から高い評価を受けています。



前列左から2人目が下條教授

（サイバーメディアセンター）

大竹文雄教授「日経・経済図書文化賞」並びに「サントリー学芸賞」受賞

社会経済研究所 大竹文雄 教授が、著書『日本の不平等—格差社会の幻想と未来』（日本経済新聞社）で、第48回日経・経済図書文化賞並びに第27回サントリー学芸賞【政治・経済部門】を受賞しました。

日経・経済図書文化賞は日本経済新聞社と日本経済研究センターが主催する賞で、過去1年間に出版された経済図書の中で、特に優秀な図書に贈られます。

サントリー学芸賞はサントリー文化財団が主催する学芸賞で、広く社会と文化を考える独創的で優れた研究、評論活動を著作を通じて行った個人に贈られます。

今回両受賞の対象となった作品は、現代日本社会の経済格差拡大などの不平等について、高齢化に着目し、アンケート調査を用いて所得、賃金、消費等の様々な次元で分析したもので、既存の欧米の仮説が日本経済には当てはまらない点を明らかにするなど、独創的な視点による分析が高く評価されました。

日経・経済図書文化賞の表賞式は、11月4日（金）に東京・大手町の経団連会館で行われました。サントリー学芸賞の贈呈式は、12月9日（金）東京・千代田区丸の内の東京会館において行われました。



（社会経済研究所）

12名の教員が「大阪大学共通教育賞」受賞

大学教育実践センターでは、11月11日(金)に事務局301会議室において平成17年度第1学期大阪大学共通教育賞の表彰式を行いました。

この大阪大学共通教育賞は、全学共通教育の授業を担当する本学教員及び非常勤講師を対象として、優れた授業を実践した教員、優れた教科書等を著した教員、優れた著述を行った教員、並びに全学共通教育の実施運営に顕著な功労のあった教員を表彰することによって、共通教育の質的向上を図ることを目的に平成14年度に制定されたもので、今回が7度目の表彰となりました。この顕彰制度が教育評価の先駆的な試みとして、本学の教育の発展に寄与できることを願うものです。

大阪大学共通教育賞の選考は、全学の教員及び学生を対象に行ったアンケート結果に基づき、選考委員会において、教育上の多大な努力や優秀な教育技術等を総合的に評価した結果、12名の教員が選出されました。

表彰式では、宮原秀夫総長から表彰状と記念品の授与が行われ、北見耕一理事・事務局長、高杉英一大学教育実践センター長、眞鍋昭治副センター長、山下啓一事務長も列席し、受賞者を祝福しました。

〈受賞者〉

竹 中 享 (大学院文学研究科教授)
 森 岡 裕 一 (大学院文学研究科教授)
 舟 場 保 之 (大学院文学研究科助教授)
 佐 藤 博 樹 (大学院理学研究科助教授)
 堀 内 眞 理 (大学院理学研究科助教授)
 今 井 克 彦 (大学院工学研究科教授)

坂 内 千 里 (大学院言語文化研究科助教授)
 渡 邊 伸 治 (大学院言語文化研究科助教授)
 Robert Bryan Perkins (大学院言語文化研究科外国人教師)
 小 原 美 紀 (大学院国際公共政策研究科助教授)
 山 成 数 明 (大学教育実践センター教授)
 大 橋 一 弘 (大学教育実践センター非常勤講師)



(大学教育実践センター)

村田博司助教授及び岡村康行教授「EuMC Microwave Prize」受賞

大学院基礎工学研究科の村田博司助教授、岡村康行教授らは、2005年10月にパリで開催された国際会議 EuMC2005（European Microwave Conference 2005）において、EuMC Microwave Prize を受賞しました。

この賞は、マイクロ波関係の学会として歴史のある世界的にも有名な国際会議 EuMC における発表論文の中から、最も優れた論文1件に対して授与されるものです。今年の会議では、36ヶ国から500件を超える発表があり、その中から村田助教授、岡村教授らの論文が選ばれました。

受賞対象となったのは、「分極反転技術を利用した新しいミリ波帯光SSB変調器の開発とRadio-On-Fiberシステムへの応用」に関する研究です。

村田助教授、岡村教授らは、これまで実現が困難であったミリ波という極めて高い周波数域において動作可能な光SSB（Single Side-Band：単側波帯）変調器を、電気光学結晶の分極反転技術を用いて実現することに成功しました。さらに、開発した光SSB変調器を用いて、Radio-On-Fiberシステム（光ファイバー無線システム）と呼ばれる新しい光・無線融合通信システムを構成して無線信号伝送実験を行ない、ミリ波帯無線信号を、光ファイバー通信網を用いて高品位に伝送できることを実証しました。ミリ波帯無線通信は、将来のユビキタス通信ネットワークでの利用が期待されているものであり、これら一連の研究が高く評価されました。



（大学院基礎工学研究科）

東風西風

在学44年間を振り返って



名誉教授 岩田 宙造

滋賀県長浜市の高校を卒業して、1954年（昭和29年）4月大阪大学に入学しました。入学当時は、今村荒男総長、熊谷三郎一般教養部（教養部）長（熊谷信昭元総長の父上）でありました。教養部は特に学部学科にこだわらず、大きく文系、理系とに分かれ、学舎は南校（旧制大阪高等学校）と北校（旧制浪速高等学校）とがあり、先生方も南校では旧大高の先生が、北校では旧浪高の先生が多く、この年から薬学科進学予定者は専門課程の講義の関係もあり、北校に全員集められました。学生は一応進学予定として入学時、学部を決めていましたが、理系ではその大きな枠組みの中で教養部での成績次第で他学部、他学科に進学することが可能であり、そのため先輩たちの情報から、優しい先生の講義には、受講生が集中し、厳しい

先生の講義は逆に受講生がいないため休講になったものもありました。総じて教養部時代はどこかおおらかで、どこか厳しいところでもありました。南校にいる学生も含めて、教養部時代は幅広く理系の人たちとの交流があり、時には文系の人たちとも一緒に講義を受けることもありました。このことは後に他学部に関わり合いが多く、卒業後も含めて色々な面で大いに役に立つことになり貴重な2年間となりました。講義室の窓から池を隔てて、空港に勤務するアメリカ人のための刀根山ハイツ、警備のためか池端は鉄条網で囲まれ、MPボックスもあり、よく手入れされた芝生、アメリカ人の子供たちのスクールバス等全く異国の景色に一部憧れを持って眺めていたことを思い出します。安保反対、デモ、街頭での署名活動、明道館でのコンパ、マージャン、西宮香露園でのヨットと忙しく過ごしました。

薬学部（1955年学部昇格、蛸ヶ池）に進学して、学位取得後1965年から1967年の2年間は博士研究員としてアイオワ州立大学で働くことになり、大阪大学を2年間留守にすることになりました。帰国後1968年助手に採用されましたが、しばらくして大学は学園紛争に巻き込まれ、封鎖、火炎瓶、学位審査および教官の人事への不満等、大学の管理運営に対する批判も激しく心身ともに荒れた時代となりました。1975年、当時薬学部は学科増設、寄附もあって学舎を増築して余り年月が経っていなかったのですが、大学の統合計画に沿って吹田市山田丘、万博跡地に移転することになりました。しかし最寄り駅からは遠く通勤通学は大変でした。

1980年に教授に就任したのですが、学部が小さいため学部代表としての全学の委員会への出席が多く大変でした。学生生活委員会の課外活動小委員会委員長のとき、文科系サークル棟新設に関連して同時進行していた最重要課題であった学寮問題の解決が絡んで学生部長（教授）、事務官である学生課長、課長補佐との間で色々苦勞しました。その後、附属図書館薬学部分館長（特殊事情で晩くまで存続）として分館長会議に出席することになり、毎回会議終了後に事務官も含めた数人で、皆様方の博識に感心し驚きながら、楽しい雑談の時間を過ごせたことを懐かしく思い出します。

1988年薬学部長に就任しましたが、当時最大の難問は事務官はもとより教官の定員削減でした。学部が小さいため融通がつきにくく、さらに設立時に無理をして他学部から助手の席を借りていたこと、過去に図書室の建設で基準面積のオーバーが指摘されており、講座の増設、教官の純増が責務でありました。まずは文部省医学教育課にその必要性を説明し一応の了解を取り、次いで文部大臣にもお目にかかり、さらには本学出身の元文部省局長にもバックアップをお願いして、背水の陣で交渉に当たりました。文部省大学課大学院係長には薬学部事務長と2人で何度も説明に上がり、最後には総長のご理解を頂き、本部事務局の協力も得て新しい専攻、環境生物薬学研究科の新設の許可を得ました。教官4名の純増を得たときは定員削減から逃れられて大変嬉しいことでした。薬学部の先生方を始めとして沢山の方々のご協力を得て達成できたこと、ご支援くださった方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。これは薬学部製薬化学科増設以来のことで、これは次の学舎増築につながりました。その後、学部長時代めぐり合わせて全学の入学試験副委員長（実際の責任者）となり、センター試験を含めて諸々の業務（問題紙の運搬、保管、そのための警備、採点等、特に学外との係わり合い等）で大変な経験をいたしました。また長期計画委員会委員長として、学部のテリトリーの問題も難儀しましたが、埋蔵文化財調査委員会委員として会議に出席して、石橋地区で掘り出された石器の斧に直接手を触れたときは感激しました。

環境生物薬学研究科の設置が許可され、学年進行で5講座が新設されるに伴って当然建物が建設されるのですが、当時医学部の移転が行われており文部省での本学の予算が突出していることから増築は待つよう言われていました。しかし、その後本部事務局のご配慮で新館の建築が認められ、私の最終講義を新しく出来上がった講義室で出来ましたこと感慨深く感謝いたしております。また、建築が遅れたため基準面積の算出法に変更があり、まったく都合のいい算出方法が採用されることになり、思いもよらぬ広い面積の建物が建つことにもなりラッキーでした。もちろん本部事務局のご厚意とご尽力があってこそと思っています。

以上のようにして沢山の方々のご協力ご支援を得て、大学の管理運営にも参加でき充実した毎日を過ごせましたことを幸せに思っております。

退官後は、TLO ひょうご、大阪TLOのお手伝いをし、銀行系バイオメディカルファンドの技術評価を行うと同時に、薬学部発ベンチャー、薬効ゲノム情報(株)の設立ができ、現在も大阪大学と少しは関係を持って、全く感謝の日々を送らせていただいております。

笹田 剛史名誉教授(工学部)逝去



本学名誉教授笹田剛史先生は、病氣療養中のところ平成17年9月30日(金)肺がんのため逝去されました。享年64歳。

先生は広島県にお生まれになり、昭和39年3月京都大学工学部建築学科をご卒業、昭和41年3月同大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程を修了、昭和43年6月同大学院工学研究科建築学専攻博士課程を退学され、同年6

月京都大学助手に採用、昭和45年7月大阪大学助手、昭和46年2月同講師、昭和47年10月同助教授、昭和51年11月に京都大学より工学博士の学位を授与されました。昭和63年7月大阪大学教授に昇任され、環境工学科第二講座をご担当、平成10年4月配置転換により環境工学専攻環境デザイン学講座環境設計情報学領域を担当されました。平成16年3月に定年退官され、同年4月大阪大学名誉教授の称号を授与されました。

先生は、環境デザインという建築・都市・土木・ランドスケープデザインなどの関連分野を持つ、広範なデザイン領域を対象にして、計算機を援用した計画・設計手法の研究と開発を一貫して推進されました。また、長年にわたり広い視野と高邁な見識で学生の教育、研究の推進並びに後進の指導育成に努め、多くの優れた研究者、技術者を社会に送り出し、我が国の建築・環境デザイン及び計算機援用設計の発展に貢献されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

谷村 晃名誉教授(文学部)逝去



本学名誉教授谷村 晃先生は、病氣療養中のところ平成17年10月7日(金)尿管癌のため逝去されました。享年78歳。

先生は昭和51年4月に新設された大阪大学文学部美学科の音楽学講座を担当する初代教授に着任され、昭和63

年4月から平成2年3月まで2年間にわたり大阪大学評議員をお務めになり、本学の発展と運営に大きな貢献を果たされました。平成3年3月に大阪大学を停年退官され、同年4月大阪大学名誉教授の称号を授与されました。

先生は音楽学の分野において、とりわけウィーン古典派音楽をはじめとするヨーロッパ音楽について、美学的、歴史的研究を積み重ね、その「精神構造」を解明し、さらにインドネシアなどの世界各地の音楽現象についても研究が行われるなど、日本の音楽学研究を根底から刷新される一方、その研究成果は大学における講義、演習、教育指導にも大いに反映され、その門下からは数多くの優秀な人材を世に送り出されました。また、音楽学会(現・日本音楽学会)の創設に奔走され、同学会関西支部長、同学会会長をお務めになるなど広く学会活動においても指導的役割を演じられ、各方面において多大の貢献を果たされました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

北村 旦名誉教授(医学部)逝去



本学名誉教授北村 旦先生は、去る11月1日、脳虚血発作のためご自宅で逝去されました。享年81歳。

先生は、昭和23年9月大阪大学医学部を卒業、病理学第一教室に入局された後、昭和27年5月同教室の助手、昭和30年9月鹿児島大学医学部助教授、昭和33年11月大阪大学医学部助教授を経て、昭和34年4月に、奈良県立医科大学病理学第一講座教授に着任されました。昭和51年10月には大阪大学医学部病理学第一講座教授に着任、昭和53年10月からは医学部附属病院病理部長を併任され、大阪大学医学部および同附属病院の発展に尽力されました。

退官後も、学校法人行岡保健衛生学園学校長、さらには、名誉学園長として教育や学校運営にご活躍なさいました。

先生のご専門は、肺癌の病理学的研究であり、早期肺癌の発生・進展増殖・転移機構の解明をめざした研究をおこなわれました。特に、肺癌の中でも発育進展の遅い気管支粘液腺原発の腺癌について、ラット・マウスをモデルとした発癌機構の実験的研究をおこなわれました。また、発癌の機序を追求する中で、肺の構成細胞の機能分担という新しい観点から、肺は単なる呼吸器としての弾性体であるのみならず代謝臓器である、という見解を展開されました。大阪大学の管理運営におきましても、大阪大学附属図書館中之島分館長として生物系のセンター図書館の創立に尽力される、さらに、大阪大学評議員として大学の運営に携われる、など、その重責を果たされました。また、学会活動においては、日本病理学会、日本癌学会、日本肺癌学会、日本網内系学会などに属し、それらの発展に大きく貢献されました。以上のご功績に対し、平成14年11月勲三等旭日中綬章が授与されております。

先生は読書がご趣味であり、急逝されました枕元にもルーパーの横に本がそろえて置かれていたということでもあります。誰からも愛された先生の素朴で明るいお人柄を偲び、ここに、謹んで哀悼の意を表します。

北米在住同窓生との交流会(大阪大学北米地区同窓会設立総会及び記念講演会)開催

本学では、国際交流並びに様々な情報の発信拠点、また、海外教育研究拠点として海外事務所を設け、「世界に伸びる」大阪大学の国際化戦略の一端を担っています。

このたび、北米地区に在住されている本学同窓生との交流会を企画しました。本交流会には、宮原総長をはじめ、本学役員等も出席し、法人化後の大阪大学の現状や今後の取り組み等について活発な意見交換を行いたいと考えています。

また、同日には、北米地区に在住されている同窓生相互の連携と、大阪大学との連絡を密接なものにするために「北米地区同窓会」を設立し、第1回目の総会も予定されています。

今回の交流会等の開催にあたっては、各部局同窓会にご協力いただき、現在北米地区に在住されている卒業生の状況についてお知らせいただき、それらの情報を基に開催のお知らせを送付させていただいております。(これら情報に関しては、同窓会関連以外に使用することはありません。)

お知り合いの大阪大学卒業生がおられましたら、是非お声かけをお願いします。

日時 2006年1月7日(土) 午前10時～

会場 ホテルニッコー サンフランシスコ

(25階 Golden Gate Room)

222 Mason Street, San Francisco, CA 94102

<http://www.hotelnikkosf.com/>

司法試験合格率 阪大がトップ

法務省の司法試験委員会が11月9日、平成17年度司法試験(2次試験)の最終合格者を発表。合格者数は1,464人(男性1,114人、女性350人)。

受験者数は39,418人と前年度比約4,000人の大幅減で合格率は3.71%(前年度3.42%)合格者の平均年齢は29.03歳と過去最高でした。

大阪大学は、出願者705人、合格者57人、合格率8.09%で、合格者数では6位ですが、合格率では第1位です。

平成17年度 司法試験最終試験大学別合格率トップ10

順位	大学名	出願者数	合格者数	合格率
1	大阪大学	705	57	8.09%
2	東京大学	3131	225	7.19%
3	京都大学	1668	116	6.95%
4	名古屋大学	468	32	6.84%
5	一橋大学	794	51	6.42%
6	北海道大学	507	30	5.92%
7	神戸大学	654	30	4.59%
8	東北大学	642	29	4.52%
9	慶応義塾大学	3021	132	4.37%
10	九州大学	535	23	4.30%

**The APRU/AEARU Research Symposium 2006
“ Earthquake Hazards around the Pacific Rim ”
－ Global Watch and Environmental Impact － 開催**

大阪大学とカリフォルニア大学バークレイ校とが共同で、APRU（環太平洋大学協議会）及びAEARU（東アジア研究型大学協会）のプログラムの一環として、「1906年のサンフランシスコ大地震100周年事業」として実施される各種国際会議とも連動のうえ、APRU/AEARU リサーチシンポジウムを下記日程で実施します。AGENDA21（地球環境に関する国連決議）に明記されるように地球規模での緊急の課題である、地震や自然災害に係る最新の観測技術、危機管理、ライフライン確保、行政の役割及び災害の低減等に関する研究成果発表をもとに、地球規模での監視体制や環境負荷の低減方策に英知を出し合います。

このシンポジウムは、2005年にすでに京都大学で実施された、第1回目の「環太平洋地域における地震・津波に関するAPRU/AEARU シンポジウム」に続く第2回目にあたり、2007年には第3回目として、東京大学とインドネシア大学を主催校とし、インドネシアにて実施される予定です。

開催期間：2006年4月21日(金)～22日(土)

開催場所：ウエスティン・セントフランシスコホテル（335 Powell St, San Francisco, CA, U.S.A.）

実行委員長：谷本 親伯（大学院工学研究科教授）

主催：大阪大学、カリフォルニア大学バークレイ校

共催：日本学術振興会 (JSPS)、地震工学研究所 (EERI)

UC バークレイ地震工学研究センター、大阪サンフランシスコ姉妹都市協会

問合せ先：研究推進・国際部国際交流課国際交流推進係（内線 7038）

室岡義勝 特任教授・大阪大学サンフランシスコセンター長
(info@osaka-u-sf.org)

ホームページ：<http://www.osaka-u-sf.org/>

中之島センターにクリスマスツリーがお目見え



12月5日(月)、中之島センターにクリスマスツリーがお目見えしました。

このクリスマスツリーは、12月25日(日)まで飾られ、その後入れ替わりに玄関に門松が飾られます。

記念講義

平成18年3月31日限りで定年等にて退職される教授の記念講義に関し、日程等が決まったものについてお知らせします。

部局（講座・部門等）	氏 名	日 時・場 所	講 義 題 目
経済学研究科 （経済学専攻歴史分析講座）	宮 本 又 郎	1月26日（木） 10：30～12：00 法経講義棟5番教室	経済史のなかの大阪
経済学研究科 （経営学系専攻モデル解析講座）	田 畑 吉 雄	1月30日（月） 14：40～16：10 法経講義棟5番教室	不確実性のもとでの意志決定 …経済科学から金融工学へ…
医学系研究科 （外科系臨床医学専攻 器官制御外科学講座 （産科学婦人科学））	村 田 雄 二	2月20日（月） 15：30～17：00 医学部講義棟A講堂	周産期医学の臨床と研究
歯学研究科 （総合機能口腔科学専攻 顎口腔機能再建学講座）	野 首 孝 嗣	2月16日（木） 16：00～17：00 歯学部4F大講義室	咬合・咀嚼・嚥下をコアにした歯学 教育・研究・臨床の展開 —歯科補綴 ^{ほてつ} 学をこよなく愛した 38年間—
薬学研究科 （応用医療薬科学専攻 生体機能解析学大講座毒 性学分野）	田 中 慶 一	2月27日（月） 14：30～16：00 薬学研究科2号館 特別講義室	メタロチオネインの毒性学的役割
工学研究科 （応用化学専攻 分子創成化学講座）	黒 沢 英 夫	1月27日（金） 13：00～14：15 コンベンションセンター MO ホール	未定
工学研究科 （生命先端工学専攻 物質生命工学講座）	横 山 正 明	1月27日（金） 16：15～17：30 コンベンションセンター MO ホール	有機半導体が描く情報化社会へのシ ナリオ —昨日、今日、そして明日—
工学研究科 （マテリアル生産科学専攻 生産プロセス講座）	小 林 紘二郎	2月20日（月） 13：00～14：30 工学部材料系R1棟 岡田 メモリアルホール（R1-312）	平衡と非平衡のはざ間で

部局（講座・部門等）	氏 名	日 時・場 所	講 義 題 目
工学研究科 （地球総合工学専攻 社会基盤工学講座）	松 井 繁 之	2月27日（月） 15：00～17：00 医学部銀杏会館阪急電鉄・ 三和銀行ホール	未定
基礎工学研究科 （システム創成専攻 電子光科学領域光エレクトロニクス講座）	小 林 哲 郎	2月3日（金） 15：00～ 基礎工学部国際棟ディス プレイ室	“光”この不思議なもの
基礎工学研究科 （システム創成専攻 システム科学領域システム理論講座）	藤 井 隆 雄	2月10日（金） 15：00～ 基礎工学部国際棟ディス プレイ室	最適制御の理論と応用の足跡を振り返って
基礎工学研究科 （機能創成専攻 機能デザイン領域制御生産情報講座）	小坂田 宏 造	2月27日（月） 13：30～15：00 基礎工学部国際棟ディス プレイ室	塑性学の歴史
言語文化研究科 （言語文化国際関係論講座）	高 岡 幸 一	2月23日（木） 14：40～17：00 言語文化研究科棟(2F) 大講義室	印欧語のいくつかの語源について
言語文化研究科 （言語文化国際関係論講座）	中 埜 芳 之	2月23日（木） 14：40～17：00 言語文化研究科棟(2F) 大講義室	日本人のドイツ観 ーその歴史的変遷をめぐってー
情報科学研究科 （バイオ情報工学専攻 人間情報工学講座）	赤 澤 堅 造	2月10日（金） 15：00～16：30 工学研究科 メモリアルホール(E1-115)	筋・生体情報工学
生命機能研究科 （細胞ネットワーク講座）	岡 本 光 弘	2月21日（火） 16：00～17：30 医学部講義棟A講堂	ステロイドジェネシス ー酵素から細胞へー
環境安全研究管理センター	田 中 稔	1月27日（金） 14：45～16：00 コンベンションセンター MO ホール	分離分析 ー高感度と選択性を目指してー

今回は、自宅の古い庄屋屋敷を開放し、小・中・高校生に、学ぶ楽しさを知ってもらおうと情熱を傾ける名誉教授を取材しました。

畑田家住宅(登録有形文化財)の一般公開・フォーラムと畑田塾

名誉教授

畑 田 耕 一

—畑田家住宅の特徴は。

畑田家住宅は、明治期の旧家の趣をよく残している庄屋屋敷です。江戸時代より羽曳野市西部の郡戸に所在し、庄屋として地区全体の重要な役割を果たして来ました。現在の建物は、明治20年(1887)頃の再建と伝えられています。

主屋は、つし2階(屋根裏部屋)をもつ田の字型平面に座敷がついた間取りで、土間の梁架構は古い伝統をよく伝えています。全体は、これらに2棟の蔵、長屋門、付属屋、納屋を配置した屋敷構えです。

—登録有形文化財とは。

平成11年に、羽曳野市はじめ関係者の方々のお力添えにより、国の文化財保護審議会で、羽曳野市で初めて、国の登録有形文化財に登録されました。登録有形文化財とは、近代の歴史遺産を中心に、私たちの身近にある建築後50年以上を経過した建造物(住宅、橋、トンネルなど)を国の登録台帳に登録し、住民・所有者が自主的に保存・活用しつつ未来に継承していくものです。畑田家住宅では、建物の文化財としての価値を維持しながら、さらに新しい文化を生み出すための活動をこれまでの学校教育、生涯教育



畑田家住宅全景



江戸時代の特徴を残す床の間と入り込み書院



納屋



土間上部の力強い梁架構



一般公開で見学者に説明する畑田名誉教授(中央)

での経験を生かして行っています。また、この家で自然をテーマにした油彩画の大作を描き続ける義兄中村貞夫氏の作品もこの家の生み出している文化と言えます。

—どのような活動を。

平成12年春から、羽曳野市と同教育委員会の支援・協力を得て「畑田塾」の開催、一般公開ならびにフォーラムを開始しました。

活動を開始して半年経った頃に、趣旨に賛同して下さる多くの方々のご理解とご協力で「畑田家住宅活用保存会」(会長 畑田 勇氏、平成17年12月15日現在会員272名)を結成することができ、活動が軌道に乗りました。

畑田家住宅の周辺には、同じような古い住宅がかなり残っています。古い町並みを残して、世代を超えて愛着のもてる個性的で落ち着いた集落になればよいなと思っております。

—一般公開とフォーラムではどのようなことを。

毎年春と秋に行う一般公開は、今までに12回開催し、毎回50人を超える参加者があります。年齢層は広く、古い家や道具への郷愁を覚えつつ昔の文化の良さを確認している方もあれば、昔の風習・生活の工夫を今の時代に生かしていこうという若者も多いです。

一般公開の午後のフォーラムでは、講演後の参加者全員による熱のこもった議論が1時間を超えて続くのが常で、会の幕引きに困るぐらいです。これからもできるだけ広い層の方々にこの屋敷に接していただき、建物の新しい魅力や個性を引き出して、この畑田家住宅を美しく生かし続けることができればと願っています。

日本在住の外国の方の参加もかなりあり、「この家でのフォーラムに参加して初めて日本の心が理解できた」というくれた留学生（韓国）もいます。大阪大学の留学生や学生の異文化理解・交流の場として活用していただければと思っています。

— 畑田塾の目的は。

畑田塾は、江戸時代からの文化・歴史を語りかける屋敷の中で、たとえ漠然とではあっても将来のことを考えはじめる小学校高学年から高校の生徒に、いろいろな分野の専門家との対話と学習を通して、将来の道を見つけるきっかけをつかんでもらうのが目的です。この年代の子供の教育には学校だけでなく親や保護者のつくりだす環境が大変大事であることを考えて、子供と一緒に参加を奨励しています。今年で7回目になります。講演していただいた講師の方々は元大阪大学総長 金森順次郎氏、作家 筒井康隆氏、関西棋院 吉田美香氏、大阪歴史博物館長 脇田 修氏、武庫川女子大学教授 糸魚川直祐氏、東京大学教授 山本

智氏、フォトジャーナリスト 小林正典氏、大阪大学名誉教授 肥塚 隆氏、大阪大学教授 柏木隆雄氏、関西二期会会員 畑田弘美氏、ノーベル化学賞受賞・筑波大学名誉教授 白川英樹氏ら25人になります。

— 参加している子供たちの様子は。

子供たちは、畳敷きの部屋でその道の専門家から親しくお話を聞いて、これまで知らなかった分野、考えてもみなかったことへの関心を呼び起こされます。また、こわごわ、つし2階に登ったり、床の下を走り回ったりして家の中を探検し、あちこちに無造作に置かれた昔の生活用具や、どの様に使われていたのかよく分からない中2階の小部屋などを見て、この家の暮らしてきた人々の生活様式や風習に思いを馳せ、自分達とは違う時代に生きた人々の文化を学び取っていきます。専門家の話は、時には難しすぎることもありますが、小学生は話が難しくても殆ど分からなくても、それが分かるようになるまで内容を記憶しておくという能



白川 英樹先生の畑田塾「セレンディピティーを知っていますか」

はただ・こういち

名誉教授（基礎工学部）、1998年退官、高分子化学。大阪府登録有形文化財所有者の会会長。

力を持っています。難しい話も無駄にはなりません。

— どのような問題がありますか。

今は、小学生でさえ、受験や塾通いに振り回され、昔のようにのんびりと過ごし、いろいろなことに思いをめぐらしたり、想像したりする時間が失われています。たとえ僅かな時間でも、この伝統的な日本の木造家屋の持つ文化に触れることで、子供たちにゆっくりと考え、友達と話し合う習慣を身につけてもらえればと願っています。出来れば、既に亡くなった人達やこれから生まれてくる人達とも会話の出来るような子供に育てて欲しいですね。

それと、文化財を所有者や活用保存会のような自主的団体だけで保存・継承していくことは、経済的にも大変困難です。もう少し何らかの形の公的支援がないと、古い美しい町並みが壊れ、日本文化が廃れるのではないかと心配です。市民の方々に文化財への認識を深めていただくのも大事なことです。

— 今後の活動予定は。

来年の3月と11月に一般公開とフォーラム、5月に畑田塾を開催する予定です。

◆ 春の一般公開とフォーラム

開催日：2006年3月26日(日) 10:30～13:30

「懐かしい日本の名曲とショパンの調べ」

関西二期会ソプラノ 畑田弘美、ピアノ 吉山 輝

◆ 秋の一般公開とフォーラム

開催日：2006年11月19日(日)

「哲学はおもしろい？」

大阪大学理事・副学長 鷲田清一

◆ 第8回畑田塾

開催日：2006年5月28日(日) 10:30～15:00

・動物の地震予報——前兆現象ってあるの？

大阪大学名誉教授 池谷元何

・身近な出来事の中にある法則——自然は整っていて美しい

大阪大学名誉教授 堀川明

〈コメント〉

取材中、畑田先生から、「国民の教育は国の最優先事項」という言葉が何度も聞かれました。将来を担う子供たちにその夢と希望を託そうと強く念じておられるようでした。

畑田家住宅へのご案内

【所在地】 羽曳野市郡戸470

TEL 0729-55-4101 FAX 072-762-7495

【交通】

- ・近鉄南大阪線恵我ノ荘駅から 南へ徒歩30分
- ・近鉄南大阪線河内松原駅から 近鉄バス平尾行きに乗車、郡戸（こうず）下車徒歩3分
- ・近鉄南大阪線河内松原駅 あるいは藤井寺駅からタクシー15分

畑田家住宅活用保存会ホームページ

<http://culture-h.jp/hatadake-katsuyo/index.html>

プロフィール

“モンタナの風に吹かれて”

国際教育交流担当職員長期研修プログラム(LEAP)体験記

総務部総務課 矢田 昌子

みなさん、こんにちは。文部科学省による国際教育交流担当職員長期研修プログラム(LEAP:リープ)参加のため、2005年4月より米国に滞在している矢田と申します。10月中旬まではモンタナ州で、現在はカリフォルニア州パークレーで研修中です。研修期間もあと数ヶ月となった今、モンタナでの研修を中心に私の体験を紹介させていただきます。

LEAPって？

LEAPはLong-term Educational Administrators Program for International Exchangeの略で、大学等職員を対象に各機関の国際競争力強化と職員の資質向上を図ることを目的に文部科学省が行っている事業です。米国に1年間滞在し、語学研修を行うとともに、講義や米国大学の国際関係業務オフィスでのインターンシップを通して米国の高等教育システムについて学びます。私の代で9期目にあたり、今年度は私を含めたり名が最初は参加者全員モンタナ州で一緒に、10月中旬以降は全米各地の大学に散らばり研修を行っています。

なお、渡米前年度は、語学学校に通いながら文部科学省にて国際関係業務に従事することになっており、実質は2年間にわたる研修です。私は、国際統括官付(日本ユネスコ国内委員会事務局)にてユネスコ関連業務に従事しました。ユネスコや仕事の進め方について学ぶとともに、大阪大学を客観的に見ることができ、この東京で過ごした1年も非常に有意義なものであったと思います。

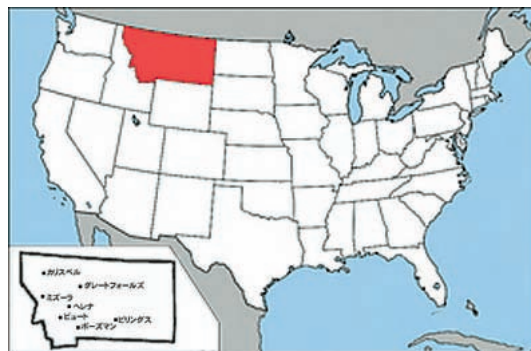
モンタナ州って？

4月12日、最初の研修地であるモンタナ州に到着しました。日本人にとっては馴染みの薄い州の1つであり、出発前いろんな方に「モンタナ州ってどこにあるの？何があるの？」と聞かれました。ということで、少しモンタナ州の紹介をしたいと思います。

モンタナは米国北西部に位置する州で、州都はヘレナといます。人口は約90万人、面積は38万1千平方キロメートルで、日本とほぼ同じ面積の土地に日本の人口の1割未満の人々が住んでいることになります。州のニックネームは“ビッグスカイカントリー”で、その名のとおりに広く青い空、広大な大地、州西部に南北に走る雄大なロッキー山脈、そして2つの国立公園を有する非常に美しい州です。

全米、世界各地から多数の観光客が訪れ、休暇を楽しむ人達の楽園として知られています。

気候は、4月頃までは寒い日が続く、9月になるとまた寒くなります。今年は5月～8月は雪は降りませんでしたが、年によっては毎月降ることもあるそうです。四季を通じて乾燥しており、湿気がない分、夏は快適に過ごすことができました。



Montana Map

モンタナ州立大学

LEAPの米国での受入先がモンタナ州立大学(以下、MSU)です。MSUは、モンタナ州のLand-Grant College(ランドグラントカレッジ)として1893年に設立され、現在4つのキャンパスを有する州内有数の大学です。ランドグラントカレッジとは、農業・技術大学設立のために連邦政府が州に公有地を払い下げることを定めた法律に基づき、州が



Montana Hall (MSU)

Montana Hallというのは大学のメインビルディングの名前で、この中には学長室や学生サービスオフィスが入っています。

連邦政府から譲渡された公有地を売り、その売却益により農学・工学といった実学を教育することを目的に設立された大学をいい、その多くは後の州立大学に発展しました。本部キャンパスは Bozeman (ボーズマン) にあり、ここが私の研修地でもありました。各キャンパスは規模も中心となる教育研究分野も少しずつ異なり、各キャンパスには学長 (Provost と呼ばれます) が、ボーズマンキャンパスにはそのトップである MSU の President が存在します。各キャンパスの個性を尊重しつつも、入学関連事務や図書館システム等学生サービスは一元化され、大学としての統一感は図られている印象を受けました。



Library (MSU)

OIP

MSU における LEAP 担当部署は Office of International Programs (以下、OIP) であり、留学生及び海外留学を希望する MSU 学生へのアドバイス・諸手続き、ビザ関連書類の作成等を 15 名程のスタッフが行っています。うち 2 名が LEAP のスーパーバイザーとして、プログラムの実施から生活のサポートまで、モンタナ滞在中はもちろんカリフォルニアに移動した今でも、非常に親切に対応してくれ



Culbertson Hall (MSU) OIP(4階)が入っている建物



ボーズマン風景 (Gallatin Field Airport より)

ています。

OIP では、各スタッフがプロフェッショナルとしてある程度独立して業務を進めており、オフィス内の意思決定プロセスが非常に迅速であることに驚きました。

語学研修

さて、ここからは研修内容に触れたいと思います。まず、最初の約3ヶ月間は語学学校の授業が中心で、スピーキング、ライティング等の授業を受けました。6月からは MSU の講義 (一つ) を聴講する授業も始まりました。全授業について毎日宿題が出され、最初の約2ヶ月は朝から夕方までの授業あるいはインターンシップ後、深夜まで宿題をするという生活が続きました。

しかしながら、他国からの留学生と一緒に授業は楽しいものでした。特に、米国政府がスポンサーとなっている米国大学での学位取得を目的とする PLUS (プラス) というプログラムで、中東やインド政府から派遣されている学生達と友達になれたことは非常に有意義でした。私は今までそれらの地域の人と話をすることがなかったので、授業内外での意見交換や雑談を通じて彼らに対する理解を深める



MSUスーパーバイザー & 研修参加者と(後列左から2人目が矢田さん)



PLUS (プラス) プログラム留学生と (後列左から2人目が矢田さん)

ことができました。

NAFSA 年次総会出席

5月末から6月初旬にかけて、第57回 NAFSA (Association of International Educators: ナフサ) 年次総会がワシントン州シアトルで開催され、私も参加しました。NAFSAは、大学等の国際交流担当者の団体であり、年1回総会が行われます。様々なワークショップの他、展示ホールもあり、日本からも JASSO (日本学生支援機構) 主催のブースに国立・私立併せて26大学がブースを構え、大学紹介を行っていました。私は時間の許す限り、興味のあるセッションに出席しました。残念ながら、リスニング力不足から、プレゼンの内容を十分理解することはできませんでしたが、これまで参加したことのないような大規模な会合の雰囲気を知ることができる貴重な機会となりました。



NAFSA 総会 (JASSO 主催ブース)

インターンシップ

モンタナ滞在中一番楽しかった研修がインターンシップでした。私のインターンシップは海外派遣に関わるもので、5月下旬より毎日2〜3時間、上述の OIP にて行いました。

業務内容は、MSU 学生の海外留学促進を目的として、9月下旬から毎月第三木曜日のランチタイムに留学あるいは海外での研究体験者に体験談を講演してもらうセミナーに関するものでした。具体的には、講演者探し、講演依頼、ポスター作成を行い、講演依頼等そのほとんどをメールで行いました。英文メールを送ることに対する抵抗感が完全に消えたのは、このインターンシップを通してであったと思います。

また、スーパーバイザーはスペシャルプログラム・コーディネーターであり、通常の交換留学等ではなく特別に企画された受入・派遣プログラム (LEAP もその1つ) の担当者であったため、海外派遣だけではなく受入についても学ぶ機会に恵まれました。

例えば、6月中旬から8月末までユーラシア地域 (ロシア等) から英語教師25名を受け入れるものがあり、オリエンテーションや高校訪問、中間評価会合等に参加させてもらいました。

特別プログラムのほか、Faculty-led program (ファカルティ・レッド・プログラム) と呼ばれる教員引率による学生の短期海外派遣プログラムもスーパーバイザーは担当しており、これについても学ぶことができました。これは、教員が企画し、参加学生を集め (10名程度)、外国の大学等を訪問し学生の国際理解を深めるというもので、OIP は企画段階で事務的なサポートを行います。日本ではあまり馴染みがありませんが、米国では数年前からポピュラーになってきている海外派遣の形態です。教員が随行するため学生は安心して旅行することができ、かつ旅行期間が長くても1ヶ月程度のため、夏休みの間に (学業期間を延ばすことなく) 参加できることが人気の理由です。一方、学生が教員分も含めて人数割で経費負担しますので、夏季の間給料が支給されない教員にとっても (正規の授業がない夏季に研究に専念したい人は別ですが) 好都合なプログラムでもあるようです。

コロキウム (Colloquium)

7月最終週からは、語学学校の通常授業ではなく、LEAP 用にアレンジされたコロキウムと呼ばれる講義が始まりました。これは、米国の高等教育システムについての講義 (週1回、3時間) であり、全米においてその分野で著名な高等教育専門家により、米国の高等教育システム概論から高等教育における日米間の連携まで、幅広いテーマで10月初旬まで行われました。

最初は講師の話していることを聞き取るのに精一杯で、また、LEAP 参加以前に国際関係業務に就いたことがなかったため疑問だらけでしたが、徐々に理解できる量が増えるとともに各テーマが頭の中で繋がるようになりました。

講義の他にも、講義に向けての準備及び復習の授業 (CPR)、高等教育関連の専門用語を学ぶ授業 (PLD) を週に各2回

づつ受けました。どちらの講師の授業も興味深く、特にCPRの講師は高等教育の学位を持っており講義内容からさらに踏み込んだ議論をすることができました。

コロシアム及び関連授業は、米国の教育システム等を学ぶだけでなく、日本の教育システムや自分の大学の国際交流についてじっくり考える機会になり、現在の研修先でのインターンシップの基礎となっています。

ファイナルプレゼンテーション

モンタナでの研修の総仕上げとして、10月7日(金)にMSUキャンパス内でLEAP ファイナルプレゼンテーションを行いました。テーマを“Japanese Family - Watching”とし、ある家族の1日を通して日本文化・生活を説明することにし、短いスキットを4つ、これに関連する説明(仕事、和製英語、迷信、結婚)、クイズを織り交ぜて約45間行いました。

日本語の台本作成、英訳、パワーポイント作成、台本暗記(スキットの中で家族に扮する人は演技練習も)、会場に展示する日本関連グッズの準備、ちらし作成、当日配布するしおりの作成等を研修生全員で分担及び協力して行い、観衆(約100名)に楽しんでもらえるプレゼンテーションをできたと思います。私自身、大人数の前での英語でのプレゼンを楽しんで行うことができ、いい思い出になるとともに少し自信になりました。



UC Berkeley (Sather Gate)

後半の研修先への移動、そしてこれから

後半の研修先は、University of California, Berkeley (カリフォルニア大学バークレー校)です。多くの方が名前を聞いたことがあるのではないのでしょうか?世界でトップクラスの総合大学で、数々のノーベル賞受賞者を輩出してい



スーパーバイザー (UC Berkeley) (10月31日ハロウィン撮影)

ます。

私の受け入れオフィスは、Services for International Students and Scholarsで、留学生や客員研究員に様々なサービスを提供しています(ビザ関連書類の発行、イミグレーションに関するアドバイス、オリエンテーションの実施等)。ここでのインターンシップは、すべきことが予め決められていたモンタナでのものとは異なり、自分の興味のあるテーマについてリサーチ(必要であれば関連部署へのインタビュー)を行うというものであり、自由な時間が多い反面、自分で積極的に進めていかなければ何もせずに終わってしまいます。目的意識を失うことなく、1日1日を大切に残りの研修期間を過ごしていきたいと思います。後半の研修については、来年3月の帰国後にまた本誌で紹介させていただければ幸いです。

おまけ

今年度のLEAP参加者2名がインターンシップとしてLEAPホームページを作成しました。本プログラムに興味のある方は一度アクセスしてみてください。

LEAP ホームページ

<http://www.montana.edu/international/LEAP/index.htm>



やだ・まさこ

プロフィール

総務部総務課 職歴：平成7年大阪大学基礎工学部採用。奈良先端科学技術大学院大学へ転出後、平成12年より現職。
平成16年4月から1年間文部科学省にて研修後、今年4月に語学研修のため米国留学。

私の本棚

『魔王』

伊坂幸太郎



社会は絶えず変化している。変化の波に気付かず、ただ身を任せて生きるのか。それとも、この波に立ち向かって生きるのか——。

物語の舞台は、政治腐敗がすすみ、景気の低迷に打開策を見出せず、周辺国の横暴にも何も言えない、閉塞感の漂う日本社会。人々は社会に無関心になり、漠然と問題意識を抱いていても、出る杭にならないようにそれを口に出したりはしない。今私たちが生活している社会と酷似していて、小説の中だけの世界だとはどこか割り切れない、妙なリアルさを感じる。

そこに登場した、一人のカリスマ政治家、犬養。明確な政治理念を掲げ、対外的にも毅然とした態度をとる彼に、今まで政治に無関心だった若者までもが魅了されていく。犬養の思惑通りに、ひとつの大きな流れに大衆が無自覚なまま迎合し、思考停止していくことの怖さ。主人公・安藤はそこに忍び寄るファシズムの匂いをかぎとり、偶然身についた「腹話術」という能力を使って、ひとりその流れに立ち向かう。

この物語の多きにわたって、ファシズムや憲法改正についての議論が繰り返されているが、そのような政治的部分についての問題提起に終始しているわけではない。

「でたらめでもいいから、自分の考えを信じていけば、そうすりゃ世界が変わる」

物語のテーマとなるのは、その信念と、それに基づいて行動することだ。

読み進めていくうえで、自分が今この時代、この社会に対してどのように関わっているか、何を考え、どう行動



しているかを考えさせられる。インターネットやメディアの発達、私たちが世の中に氾濫する多くの情報と接することを可能にした。しかし同時に、配信される情報をそれが正しいかを見極めることなく、無秩序・無批判に受け入れ、自ら考えることをせず、ただ世界の傍観者となっているのではないだろうか。

「愛の敵は、憎しみではなく、無関心だ」

引用されているマザー・テレサの言葉が心に深く訴えかけてくる。今この社会に生きているのは他でもない、私たちだ。社会の変化を敏感に感じ取り、それに順応されまいと必死に抗する主人公の姿勢こそ、私たちの本来あるべき姿なのかもしれない。

「考えろ考えろ、マクガイバー」

この言葉が示すように、周囲を取り巻く環境に左右されることなく、膨大な情報を自分なりのフィルターを通して見極め、自分の頭で『思索』すること。そして、自分の出した結論に責任をもつことの大切さを強く感じた。

こうした不穏な雰囲気とは対照的に、宮沢賢治の詩の引用がこの作品に清々しく透明感のある風合いをプラスする。人物のユーモア溢れる、流れるような台詞の軽やかさに、思わずページをめくる手も速くなるが、読み終わった後には深い余韻が残る、そんな作品だ。

基礎工学研究科 教務係
中 田 篤 宏

編集後記

最近、話題になっている書籍の『生協の白石さん』は、東京農工大学の生協で働く職員の白石さんと、学生たちのやりとりの記録が本となったものです。

どんな問いでも一生懸命に答えてくれる白石さんの姿が共感を呼び、話題となりましたが、大阪大学の生協も「白石さん」に負けず、様々なところで一生懸命がんばっています。

今回のナウススペシャルでは、「食の安全・安心—学内における生協の取り組み—」というタイトルで、豊かなキャンパスライフには不可欠である健康的な食生活への生協食堂部の取り組みを紹介しています。また、11月にオープンした「Cafeteria Restaurant & Bakery 「匠」」もガイドマップで紹介しています。大阪大学の生協さんにも注目です。

(瀬尾)

Cafeteria Restaurant & Bakery 「匠」(たくみ)



平成 17 年 11 月に、本部福利棟 1 階に“Cafeteria Restaurant & Bakery 匠”がオープンしました。経営は、大阪大学生協。店名は宮原総長自らが命名。

全面ガラス張りの明るく開放的な雰囲気のレストラン。料理は、和洋中の料理を自由にチョイスできる。ヘルシーな総菜、SS ライスやサラダバーなど女性客に配慮したメニューも好評。

また、テイクアウトもできる焼きたてのベーカリーもある。

「明るくて清潔感あるお店、そして、ご利用のお客様にゆっくりと食事をしていただける空間になるように心掛けております。」という初代店長の丹波正弘さん。

行事・学会・OB 回などの懇親会や PARTY の相談にも応じてもらえる。

営業時間：11 時～19 時

休業日：土曜・日曜・祝日及び年末年始

問い合わせ先：06－6875－2095（大学内線：9356）



ホームページ

<http://www.coop.osaka-u.ac.jp/syokudo/takumi/index.html>



焼きたてのベーカリー



サラダバー



学生交流棟の時計のある「モニュメント」とアートベンチ



学生交流棟前にある時計のある「モニュメント」は、中山池や待兼山の自然と接する「親水広場」へのゲートとなるとともに構内道路からのアイストップとなります。その形は、豊中キャンパスで学ぶ学生の「向上心」や「若さ」を象徴し、未来を目指す学問の崇高な精神を表しています。

また、交流棟のグリーンテラスに設けられたベンチ（アートベンチ）は、食堂ホールからも眺めることのできるオブジェとなり、集いの際には、ベンチやテーブル、小さな舞台にもなります。



交流協定大学紹介

ベトナム国立大学ハノイ校(ベトナム社会主義共和国)



Vietnam National University, Hanoi

1906年にUniversity of Indochinaとして設立され、1945年ベトナム国立大学として制定されました。

College of Science
College of Social Sciences and Humanities
College of Foreign Languages
College of Technology
Faculty of Economics
Faculty of Law Faculty of Education
School of Business
School of Graduate Studies
International School
Training Centre for Teachers of Political Theory
Centre for Military Education

があり、その他にInformation Technology Instituteなど6研究所等を有する総合大学です。



学部学生数17,887人、聴講生21,822人、大学院生3,404人、教授105人、助教授239人、教職員数2,682人の規模です。また、短期・長期コース、研究プロジェクトに中華人民共和国、キューバ共和国、大韓民国、日本国、ラオス人民民主共和国、フランス、ロシア連邦、米国などから300人程の留学生を受け入れている。

メインキャンパスは、ハノイ北西 Cau Giay、ハノイ中心 Le Thanh Tong、ハノイ西 Thanh Xuan があり、ハノイ北西部にさらに新しいキャンパスを建設中です。

大阪大学と2002年に大学間交流協定を締結し、本年9月には本学と共催で、ハノイにおいて大阪大学フォーラムが開催されました。

所在地：144 Xuan Thuy Road, Cau Giay, Hanoi, Vietnam

<http://www.vnu.edu.vn>

阪大Now No.86 2005.12

編集・発行 大阪大学広報委員会(総務部評価・広報課) 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1
電話：06(6879)7017 FAX：06(6879)7166
ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp>

「阪大Now」へのご意見、お問い合わせ、記事の提供等がありましたら、下記までお寄せ下さい。

E-mail: souhyokoukohou@ns.jim.osaka-u.ac.jp

